リズムを選ぶ(リズムメニュー)

機能説明

リズムを選び、リズムに合わせて演奏できます。

リズム一覧表

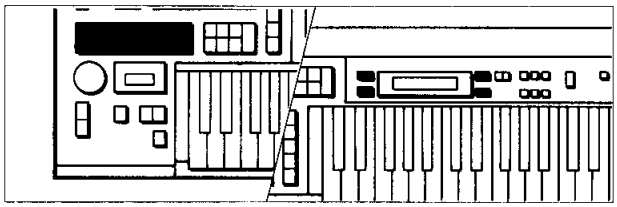
指定できるリズムの一覧表です。

リズムボタン	リズムメニュー表示		解　説
MARCH (マーチ)	March (マーチ)	Polka (ポルカ)	軽快な2拍子または4拍子の、行進曲のリズム。
	Country (カントリー)	Broadway (ブロードウエイ)	
WALTZ (ワルツ)	Waltz1 (ワルツ1)	Waltz2 (ワルツ2)	19世紀にヨーロッパ各地で広く愛好された、3拍子の舞曲用のリズム。
	J.Waltz (ジャズワルツ)	Bolero (ボレロ)	
SWING (スイング)	Swing1 (スイング1)	Swing2 (スイング2)	ジャズの代表的なリズム。
	J.Ballad (ジャズバラード)	Dixie (ディキシー)	
BOUNCE (バウンス)	Bounce1 (バウンス1)	Bounce2 (バウンス2)	弾むようなスイングジャズのリズムのとりかたの一種と、リズム&ブルースがもとになり生まれたジャマイカ産のリズム。
	Reggae1 (レゲエ1)	Reggae2 (レゲエ2)	
SLOW ROCK (スローロック)	S.Rock1 (スローロック1)	S.Rock2 (スローロック2)	3連符を基本にした、ゆったりした速さのロックのリズム。
	S.Rock3 (スローロック3)	–	
TANGO (タンゴ)	Tango1 (タンゴ1)	Tango2 (タンゴ2)	19世紀の後期にアルゼンチンで発生したダンス用のリズム。
	Tango3 (タンゴ3)	–	
LATIN 1 (ラテン1)	Cha-cha (チャチャ)	Rhumba (ルンバ)	中・南米の音楽の基本となるリズム。
	Beguine (ビギン)	Mambo (マンボ)	
LATIN 2 (ラテン2)	Samba1 (サンバ1)	Samba2 (サンバ2)	中・南米の音楽の基本となるリズム。
	Bossa.1 (ボサノバ1)	Bossa.2 (ボサノバ2)	
8 BEAT (8ビート)	8Beat1 (8ビート1)	8Beat2 (8ビート2)	8分音符を基本とした、ロックでよく使われるリズム。
	8Beat3 (8ビート3)	D.Pop (ダンスポップ)	
16 BEAT (16ビート)	16Beat1 (16ビート1)	16Beat2 (16ビート2)	16分音符を基本としたリズム。
	16Beat3 (16ビート3)	Funk (ファンク)	

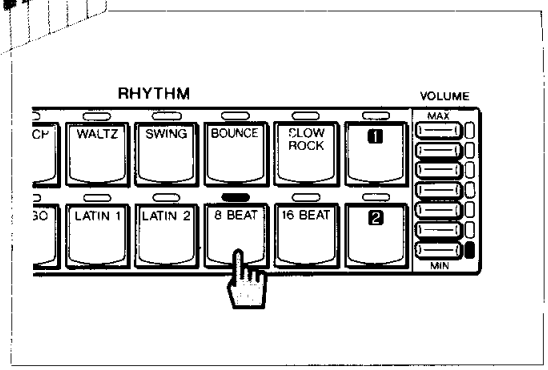
●本表の英語のリズム名は、ディスプレイの表示に合わせてあります。

操作方法

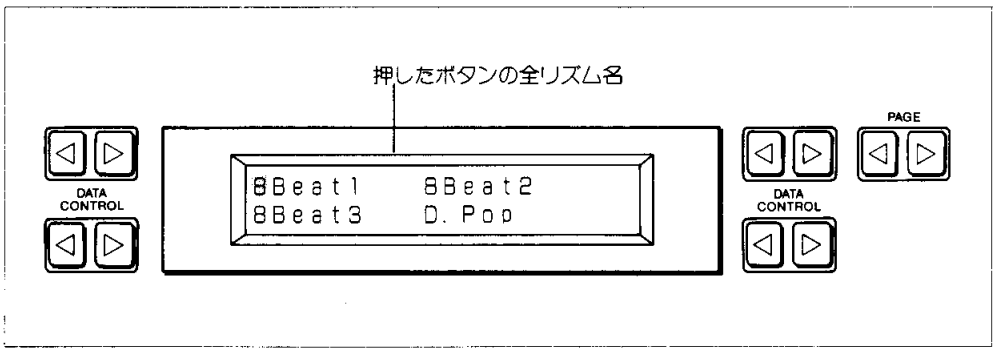
8ビートの「D. Pop」(ダンスポップ)のリズムにして、リズムの音量を最大にする操作を例にして説明します。



1 〔8 BEAT〕(8ビート)ボタンを押します。

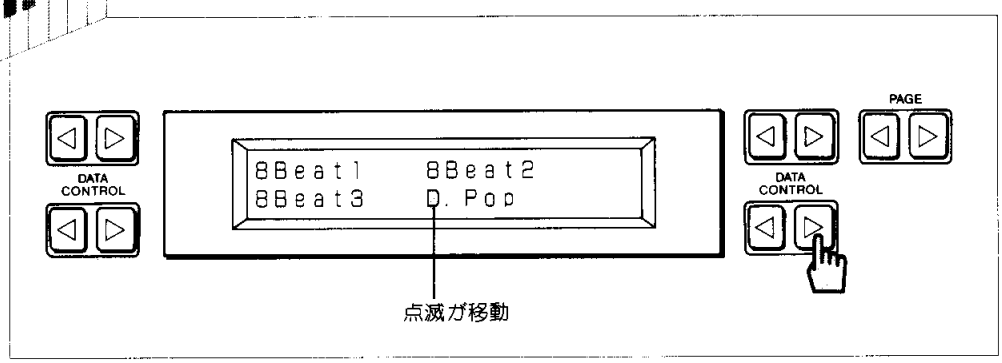


●〔8 BEAT〕(8ビート)ボタンのランプが点灯します。



●ディスプレイには、〔8 BEAT〕(8ビート)ボタンに属するリズム名が、全て表示されます。(リズムメニュー画面)
●それまで選ばれていたリズム名の頭文字が点滅します。(頭文字と黒い四角の交互表示)

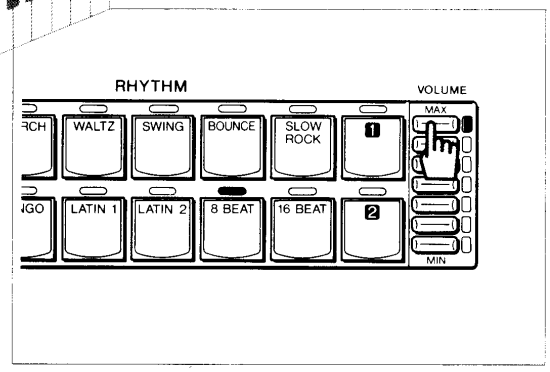
2 右下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押します。



●「D. Pop」の頭文字の「D」が点滅に変わります。

これで、「D. Pop」のリズムになりました。

3 リズムのボリュームボタンを押します。



操作のポイント

- 各リズムボタンごとに、最後に選択したリズムが記憶されています。このため、操作①で希望するリズムが呼び出された場合は、操作②は必要ありません。

注意

- 電源を入れた時は、基本レジストレーション1のリズム設定(マーチ)になります。リズム名やリズムに関する設定を変更した後、その内容を記憶させておきたい場合は、電源を切る前にレジストメモリーボタン〔1〕〜〔8〕のいずれかに記憶させてください。(→P62参照)

メモリーボタン(1)〜(8)に記憶させないで電源を切ってしまった場合でも、電源を切る前の状態に戻すことができます。その状態に戻すには、まず電源を入れ、(M./TO DISK)(メモリー/トゥーディスク)ボタンを押しながら、(D.)(ディセーブル)ボタンを押してください。

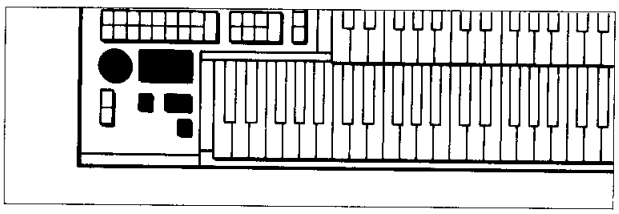
こんなこともできる

○音量を微調節できます。(→P46参照)

リズムをコントロールする

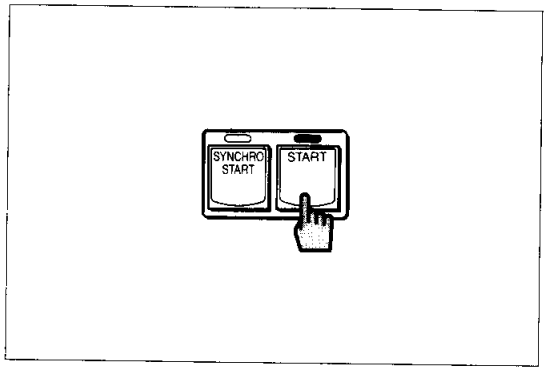
機能説明 リズムをコントロールするための様々な機能を紹介します。

操作方法



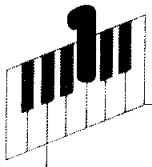
■リズムをスタート/ストップさせる

〔START〕(スタート)ボタンを押します。

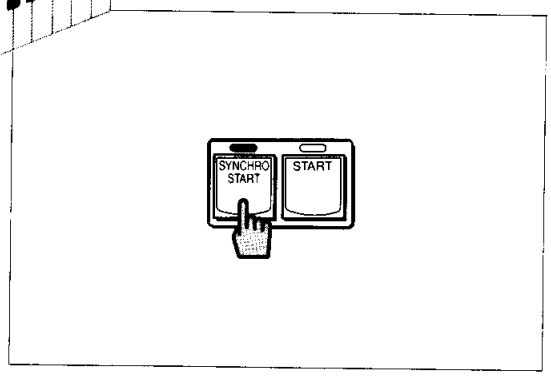


●リズムがストップしているときに押すと、ランプが点灯してスタートします。
もう1度押すと、ランプが消灯してストップします。

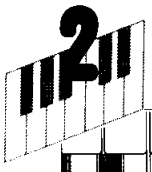
■鍵盤を押すと同時にリズムをスタートさせる(シンクロスタート)



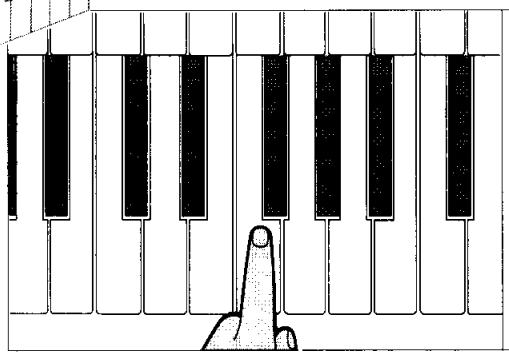
〔SYNCHRO START〕(シンクロスタート)ボタンを押します。

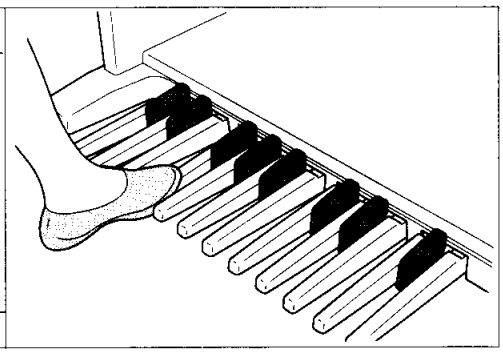


●ランプが点灯します。



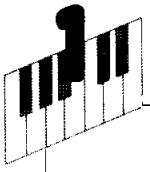
下鍵盤またはペダル鍵盤を押します。



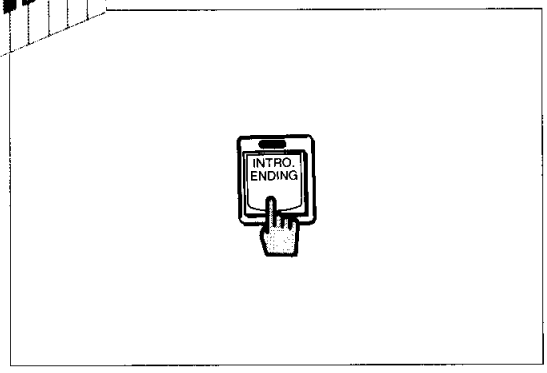


- 下鍵盤またはペダル鍵盤を押すと同時に、リズムがスタートします。
- リズムだけでなく伴奏を付けるときにも、便利な機能です。
- シンクロスタートさせた場合は、〔SYNCHRO START〕(シンクロスタート)ボタンを押してリズムをストップさせます。

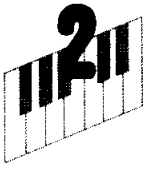
■イントロパターンからリズムをスタートさせる



〔INTRO./ENDING〕(イントロ／エンディング)ボタンを押します。



- 〔INTRO./ENDING〕(イントロ／エンディング) ボタンのランプが点灯します。

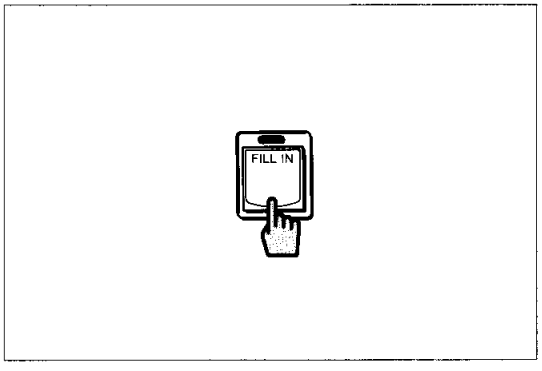


〔START〕(スタート)ボタンを押すか、またはシンクロスタートの方法で、リズムをスタートさせます。

- イントロパターンからリズムがスタートします。

■フィルインを入れる

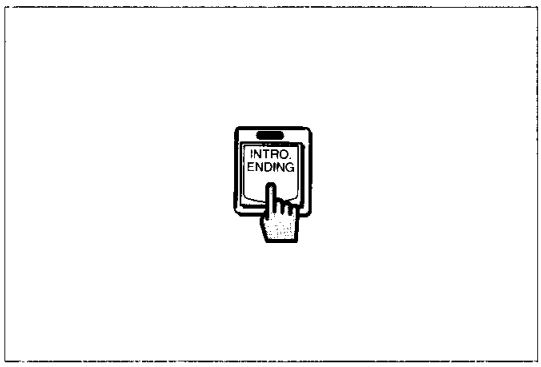
〔FILL IN〕(フィルイン)ボタンを押します。



- 〔FILL IN〕(フィルイン)ボタンのランプが点灯してフィルインが入ります。
- 1回のフィルインを入れる場合は、1回押します。
- 2回以上のフィルインを入れる場合は、その間押し続けます。

■エンディングパターンでリズムをストップさせる

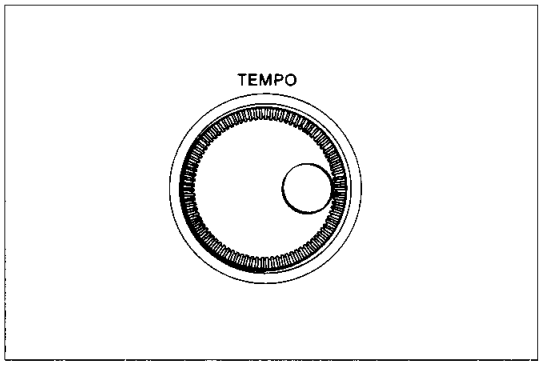
〔INTRO./ENDING〕(イントロ/エンディング)ボタンを押します。



●エンディングパターンが終わると、消灯してストップします。

■テンポを調節する

テンポダイヤルを回して調節します。



●♩=40~240の範囲で調節できます。
●時計周りに回すと値が大きくなり、テンポが速くなります。
反時計回りに回すと値が小さくなり、テンポが遅くなります。

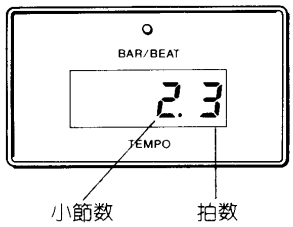
■テンポ、バー/ビートディスプレイについて

テンポを調節すると、テンポの値を表示します。

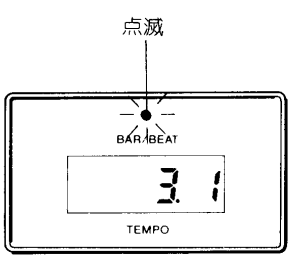
例) ♩=120にしたときは、
次のように表示されます。

リズムをスタートさせると、小節数と拍数が表示されます。

例）2小節目の3拍めのときは、次のように表示されます。



- 小節数は最大で255小節まで、拍数は1小節内の拍数を表示します。
- イントロパターンの最中は、小節数の前に「－」が表示されます。たとえば8小節のイントロのときは、「－8」～「－1」まで、小節ごとにカウントされます。



- リズムをスタートさせると、設定したテンポに従い、各小節の1拍目にランプが点滅します。
- 〔SYNCHRO START〕（シンクロスタート）ボタンを押し、鍵盤を押すまでは、1拍ごとにランプが点滅します。

こんなこともできる

○フィルインパターンからリズムをスタートさせることもできます。
〔FILL IN〕（フィルイン）ボタンを押した後、〔START〕（スタート）ボタンを押すか、またはシンクロスタートの方法でリズムをスタートさせます。

○イントロパターンの代わりに、4拍～2拍のタクト（カウント音）からスタートさせることもできます。
〔INTRO./ENDING〕（イントロ／エンディング）ボタンを押しながら〔START〕（スタート）ボタンを押すことにより、タクトからスタートします。
〔SYNCHRO START〕（シンクロスタート）ボタンを押した後に、〔INTRO./ENDING〕（イントロ／エンディング）ボタンを押しながら下鍵盤またはペダル鍵盤を押してもタクトからスタートします。

○リズムのスタート／ストップ、エンディング、フィルインなどを左フットスイッチでコントロールすることもできます。（→P87参照）

注意

- シンクロスタートさせた場合は、〔START〕（スタート）ボタンを押してもストップしません。
- 〔START〕（スタート）ボタンを押してスタートさせた場合は、〔SYNCHRO START〕（シンクロスタート）ボタンを押してもストップしません。
- イントロパターンまたはエンディングパターンの最中は、下鍵盤の音は発音されません。
- イントロパターンおよびエンディングパターンの長さは、選択したリズムにより異なります。

リズムに関する設定をする(リズムコンディション)

リズムのボリュームファイン(音量の微調節)やアカンパニメントの設定など、リズムに関する設定（リズムコンディション）を好みの状態にすることができます。

- リズムに関する設定は、どのリズムにも共通した設定になります。
- リズムに関する設定を他の設定といっしょに記憶させておきたい場合は、電源を切る前にメモリーボタン〔1〕〜〔8〕のいずれかに記憶させてください。(→P62参照)

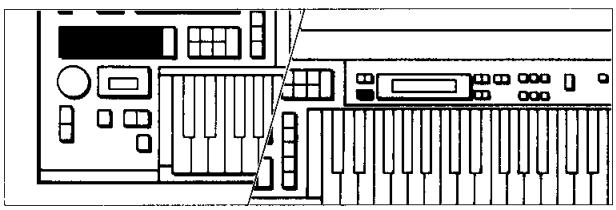
■オートバリエーションの設定

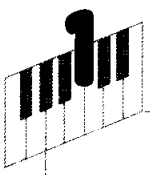
機能説明

リズムの4小節目と8小節目のパターンを、自動的に変化させることができます。

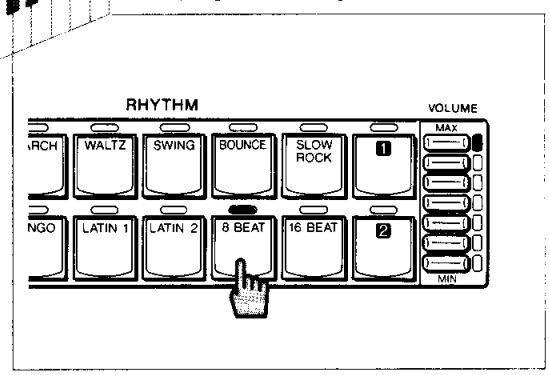
操作方法

オートバリエーション機能の「AUTO VARI.」を「■」(オン」にする操作を例にして説明します。





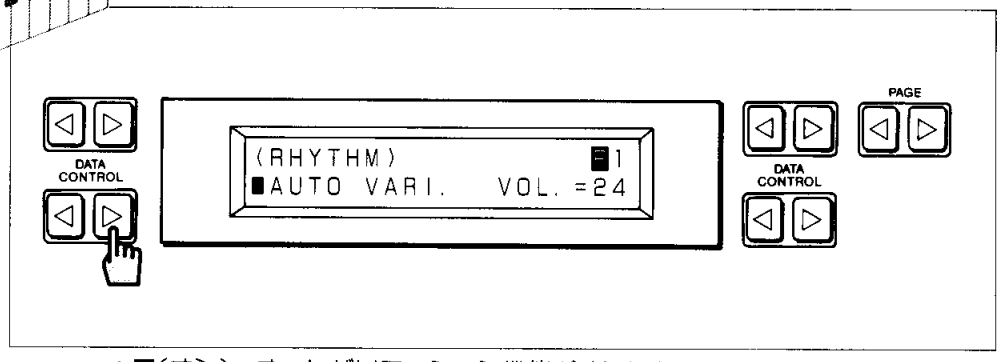
ランプが点灯しているリズムボタンを押して、リズムコンディション表示にします。



- リズムボタンを押すたびに、リズム名の表示、リズムコンディションの表示が交互に表示されます。

- それまでの「AUTO VARI.」の設定が表示されます。
- 他のページが表示された場合は、ページボタン〔◁〕〔▷〕を押して「P1」を表示させます。

左下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、〔AUTO VARI.」を「■」にします。



- ■(オン):オートバリエーション機能がオンになります。
- □(オフ):オートバリエーション機能がオフになります。

これで、オートバリエーション機能の設定ができました。

■ボリュームファイン(音量をより細かく設定する)

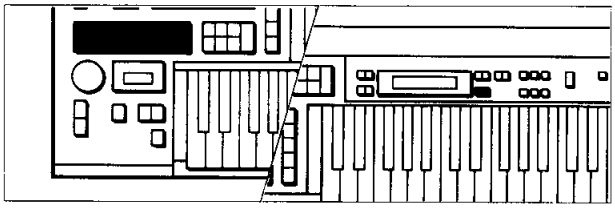
機能説明

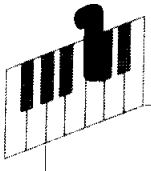
リズムの音量を微調節できます。

- キーボードパーカッション機能を使って打楽器演奏するときも、ここで設定した音量で鳴ります。

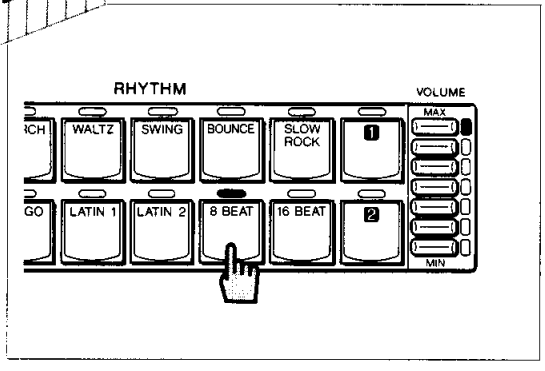
操作方法

リズムの音量を「21」にする操作を例にして説明します。





ランプが点灯しているリズムボタンを押して、リズムコンディションの表示にします。

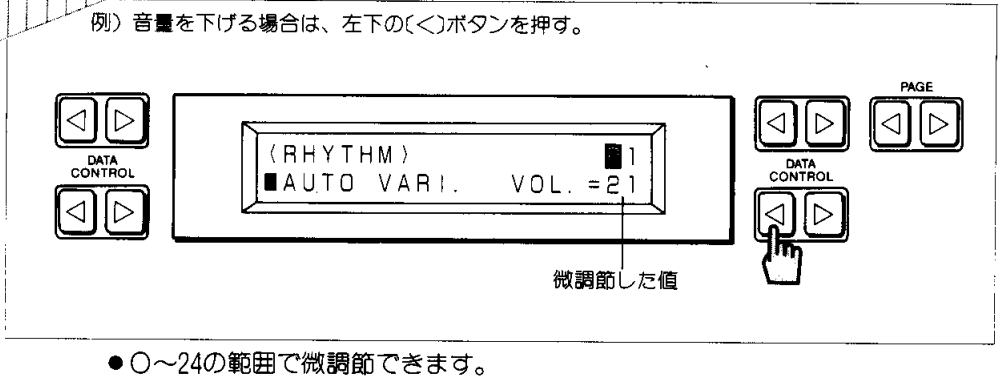


- すでにリズムコンディションの表示が出ている場合は、この操作は必要ありません。
- リズムボタンを押すたびに、リズム名の表示、リズムコンディションの表示が交互に表示されます。

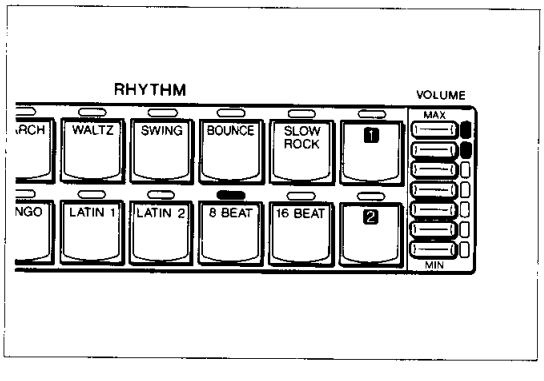
- ボリュームボタンで決めた音量の設定値が表示されます。
- 他のページが表示されている場合は、ページボタン〔◁〕〔▷〕を押して「P1」を表示させます。

21 右下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、音量を「21」にします。

例）音量を下げる場合は、左下の〔<〕ボタンを押す。



- 0～24の範囲で微調節できます。



- 音量を「21」にすると、ボリュームボタンのランプの最上段と2段目が点灯します。ボタンの最上段を押した場合と、2段目を押した場合の間の値であることを意味します。

これで、リズムの音量をより細かく設定できました。

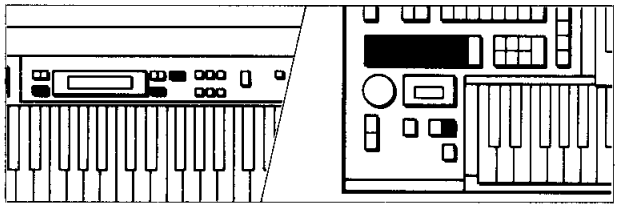
■アカンパニメントの設定

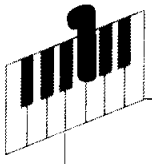
機能説明

アカンパニメント(伴奏)を付けることができます。アカンパニメントの種類には、4つのタイプがあります。それぞれのタイプは、リズムの種類によって異なります。

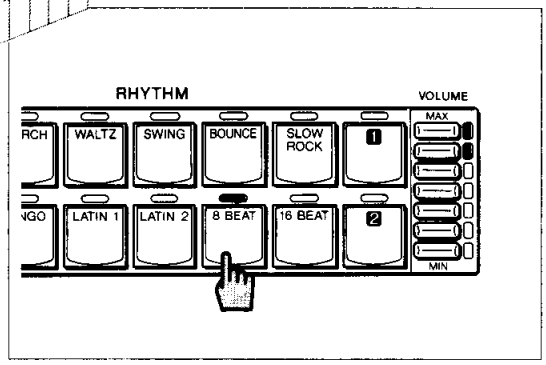
操作方法

アカンパニメントの「TYPE」(タイプ)を「2」、アカンパニメントの「VOL.」(ボリューム)を「20」にする操作を例にして説明します。

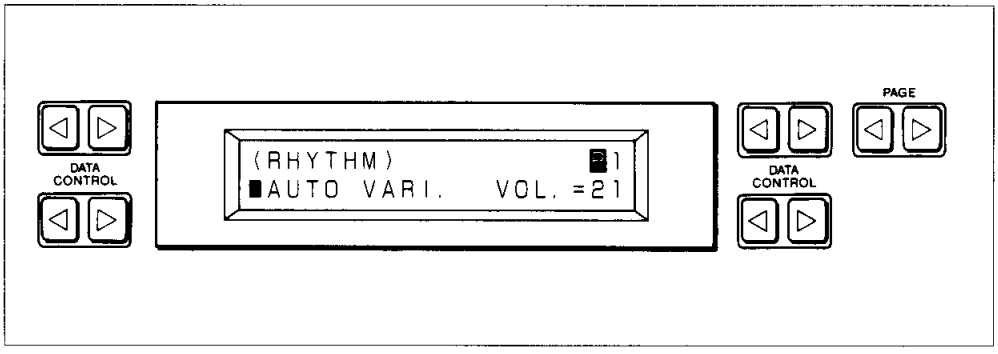


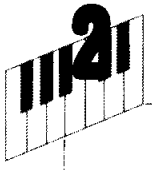


ランプが点灯しているリズムボタンを押して、リズムコンディションの表示にします。

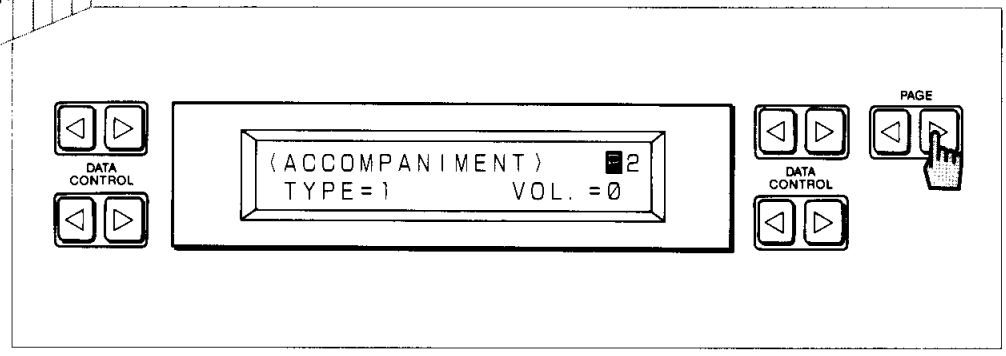


- すでにリズムコンディションの表示が出ている場合は、この操作は必要ありません。
- リズムボタンを押すたびに、リズム名の表示、リズムコンディションの表示が交互に表示されます。



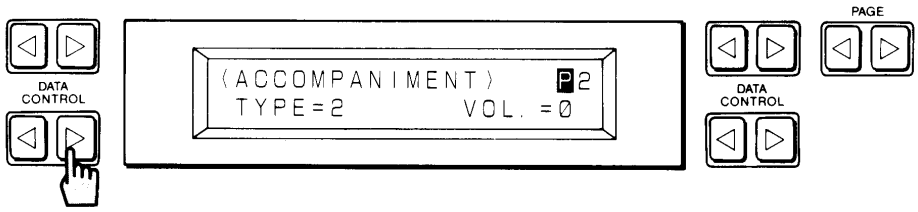


ページボタン〔◁〕〔▷〕を押して、2ページ目の「P2」を表示させます。



- アカンパニメント(リズムコンディションの「P2」)の表示になります。

3 左下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、「TYPE」を「2」にします。

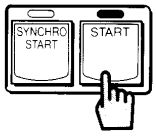


●アカンパニメントの「TYPE」は「1」～「4」の範囲で設定できます。

4 右下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、アカンパニメントの「VOL.」を「20」にします。

5 〔START〕(スタート)ボタンを押して、下鍵盤を押します。

●リズムをスタートさせないと、アカンパニメントは鳴りはじめません。



これで、リズムに加えてアカンパニメント(伴奏)を付けることができました。

こんなこともできる

○アカンパニメントは、A.B.C.(オートベースコード)機能と同時に使うことができます。詳しくは、P52をご覧ください。

注意

●アカンパニメントの機能を使う場合は、アカンパニメントのボリュームを上げてください。ボリュームが最低になっているとアカンパニメントは鳴りません。

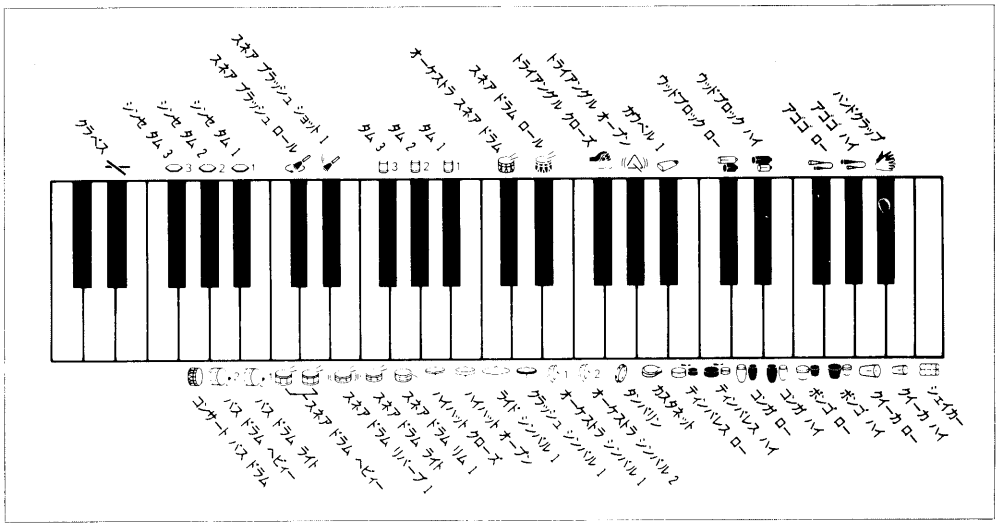
リズム

キーボードパーカッション

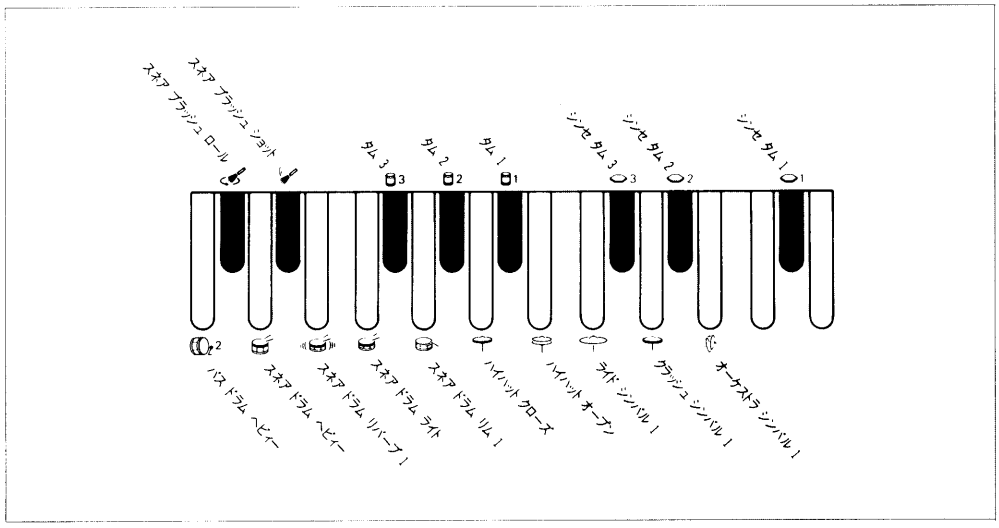
機能説明

キーボードパーカッションとは、下鍵盤またはペダル鍵盤でいろいろな打楽器の音を発音することができる機能です。
下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえると、打楽器音と同時に、それぞれで選ばれている音も発音します。
下鍵盤とペダル鍵盤に割り当てられている打楽器の音は、次の通りです。

下鍵盤の打楽器音

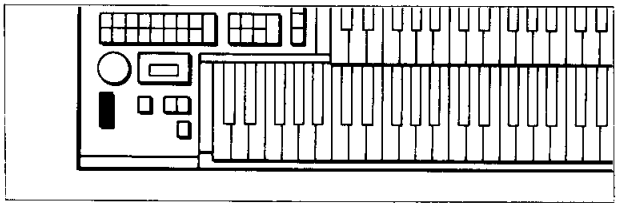


ペダル鍵盤の打楽器音

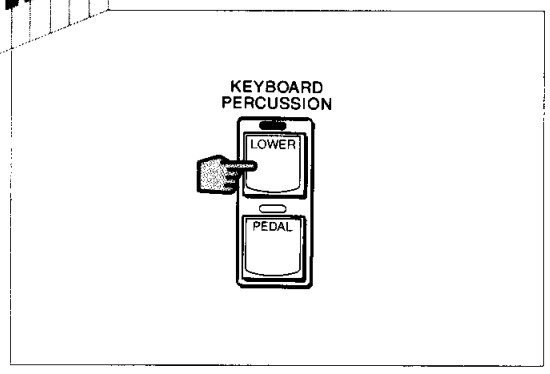


操作方法

下鍵盤、ペダル鍵盤の両方で、打楽器音を発音するように設定する操作を例にして説明します。

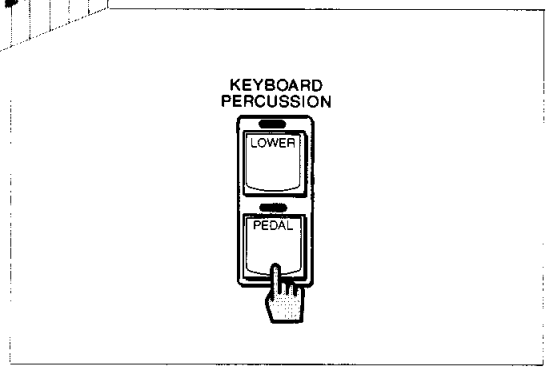


1 キーボードパーカッションの〔LOWER〕(ロワー) ボタンを押します。



●〔LOWER〕(ロワー) ボタンのランプが点灯します。

2 キーボードパーカッションの〔PEDAL〕(ペダル) ボタンを押します。



●〔PEDAL〕(ペダル) ボタンのランプが点灯します。

- リズムのボリュームまたは、リズムコンディションの1ページ目にあるボリュームで音量を調節してください。詳しくは、P46をご覧ください。
- キーボードパーカッションだけの音を発音させたい場合は、ロワーキーボードボイスやペダルボイスのボリュームを最小にしてください。
- キーボードパーカッションのボタンをもう一度押すと、打楽器の音は出なくなります。

これで、下鍵盤とペダル鍵盤の両方で打楽器の音が発音できるようになりました。

リズム

A.B.C.(オートベースコード)を使う

機能説明

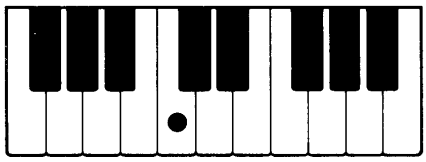
オートベースコード(A.B.C.)とは、下鍵盤またはペダル鍵盤で単音やコード(和音)を押さえるだけで、簡単に自動伴奏が付けられる機能です。
この機能を設定すると、押さえた音と同時に、押さえた音に対応したコード伴奏が鳴ります。
また、鍵盤から指や足を離しても、継続して伴奏を鳴らすことができる機能(メモリー)があります。この機能はA.B.C.と併用することができます。

A.B.C.の設定には、次の4つの種類があります。

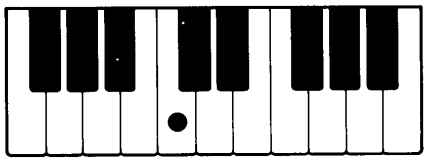
●OFF	:自動演奏は付きません。
●Single(シングルフィンガー)	:下鍵盤をひとつ押さえるだけで、メジャーコードが検出され、コードとベースの自動伴奏ができます。また、マイナーコード、セブンスコード、マイナーセブンスコードの自動伴奏もできます。
●Fingered(フィンガードコード)	:下鍵盤で押さえたコードが検出され、ベースの自動演奏が得られます。
●Custom(カスタムA.B.C.)	:下鍵盤で押さえたコードとペダル鍵盤で押さえた音が検出され、ベースの自動伴奏が得られます。

シングルフィンガーコードの押さえ方

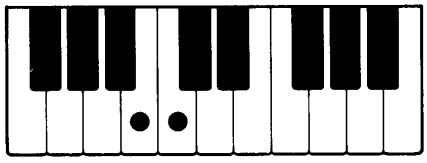
●下鍵盤を下のように押さえると、それぞれのコードが検出され、コードとベースの自動伴奏が始まります。



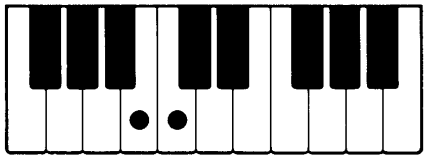
★メジャーコード
根音をひとつ押さえると、そのルートのメジャーコードになります。例は、Cメジャー(C)。



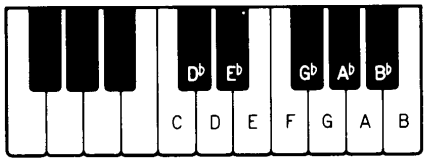
★マイナーコード
根音とそれより左側の黒鍵を同時に押さえると、そのルートのマイナーコードになります。例は、Cm。



★セブンスコード
根音とそれより左側の白鍵を同時に押さえると、そのルートのセブンスコードになります。例は、C7。



★マイナーセブンスコード
根音とそれより左側の黒鍵と白鍵を同時に押さえると、そのルートのマイナーセブンスコードになります。例は、Cm7。



下鍵盤とコードの根音の位置関係。

注意

●シングルフィンガーでは、下鍵盤のどの音域を押さえても、自動伴奏の音域は変わりません。
●シングルフィンガーでは、下鍵盤をレガート(なめらかに)に弾くと、伴奏のコードが正しく切り替わらないことがあります。次の鍵盤に押さえるときは、押さえた指を一度、鍵盤から離してから次へ移ってください。

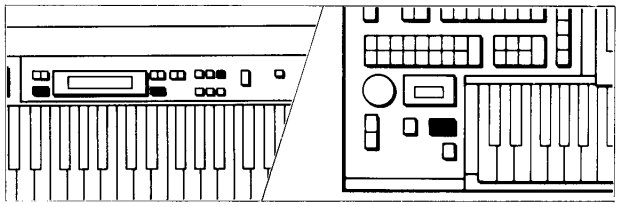
フィンガードコード、カスタムA.B.C.で検出されるコード

●フィンガードコードまたはカスタムA.B.C.を使っているときに検出されるコードは、次の15種類です。次の例の根音は、Cです。
C、Cm、C7、Cm7、CM7、CmM7、C+5、C7+5、Cdim、C7SUS4、Cm7-5、C-5、C7-5、C6、Cm6

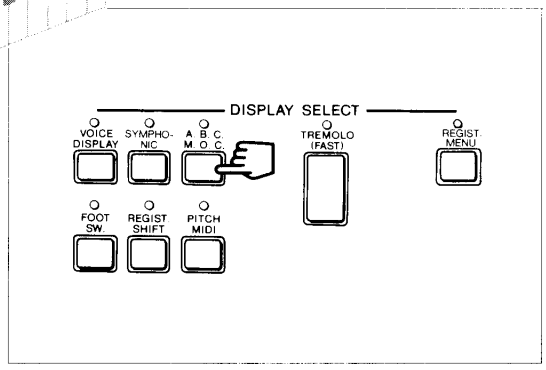
A. B. C. (オートベースコード)を使う

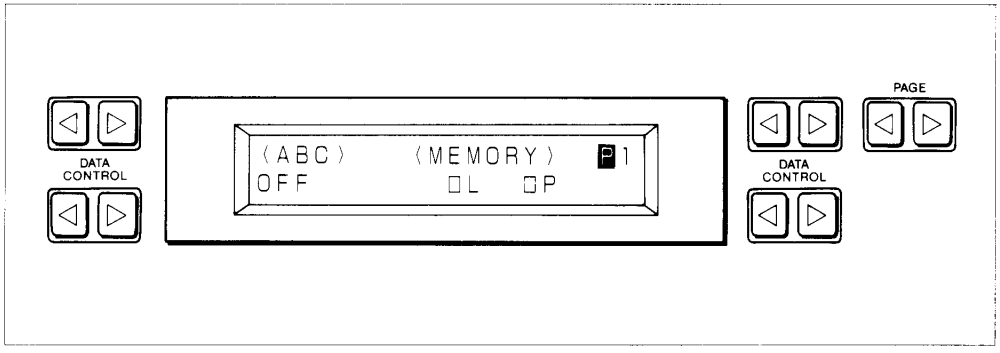
操作方法

ここでは、A.B.C.の4つの設定から、「Single」(シングルフィンガー)を選ぶ操作を例にして説明します。また、下鍵盤(L:ロワー)とペダル鍵盤(P:ペダル)を継続して鳴るように、メモリー機能をオンに設定する操作も説明します。



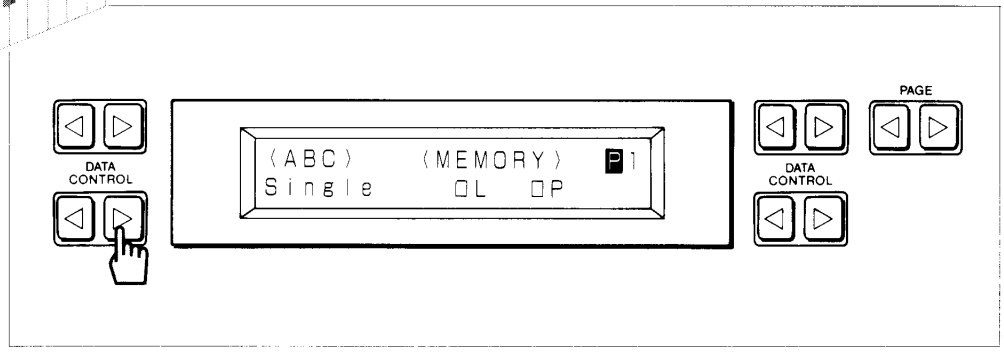
1 〔A.B.C./M.O.C.〕(オートベースコード/メロディーオンコード)ボタンを押します。



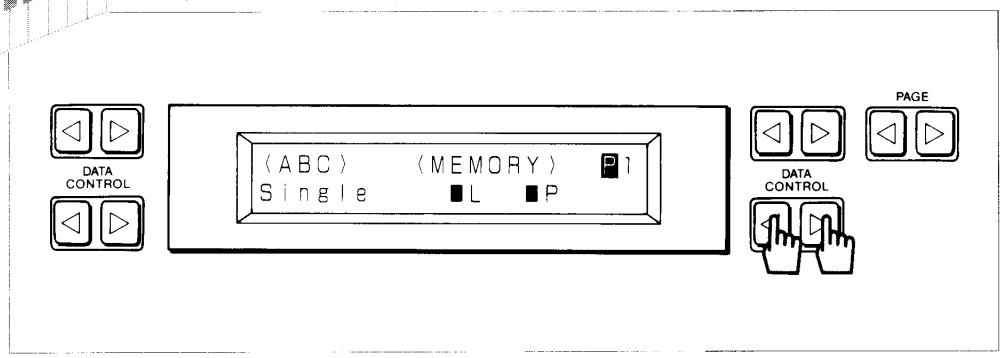


● A. B. C.、メモリーの設定メニューが表示されます。

2 左下のデータコントロールボタン〔▷〕を押して、A.B.C.モードを「Single」にします。

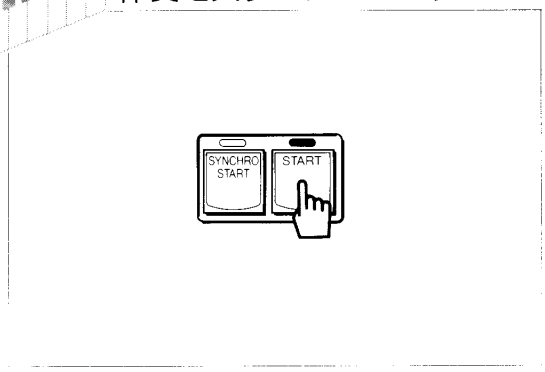


3 右下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、メモリーの「L」(ロワー)と「P」(ペダル)を「■」にします。



これで、A. B. C. モードとメモリーの設定が終了しました。

4 〔START〕(スタート) ボタンまたは〔SYNCHRO START〕(シンクロスタート) ボタンを押して、下鍵盤を押し、A.B.C. の伴奏をスタートさせます。



●ロワーキーボードボイスとペダルボイスの発音状態（ボイスコンディション）の設定はP26をご覧ください。

こんなこともできる

○ A. B. C. は、リズムコンディションと連動しています。詳しくは、P45をご覧ください。
○ メモリーは、リズムをスタートしている状態なら、A. B. C. をオフに設定していても機能します。
○ A.B.C. は、アカンパニメント(伴奏)機能と同時に使うことができます。詳しくは、P48をご覧ください。

リズム

M.O.C.(メロディーオンコード)を使う

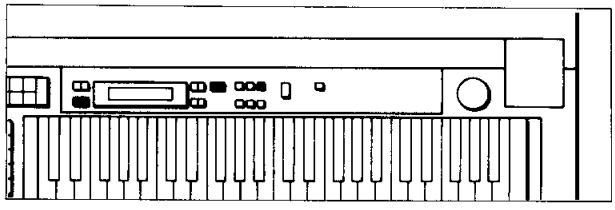
機能説明

メロディーオンコード(M.O.C.)とは、下鍵盤でコードを押さえたときに、上鍵盤で弾くメロディーに自動的にハーモニーを加える機能です。
メロディーオンコードの種類には、次の3つのモードがあります。

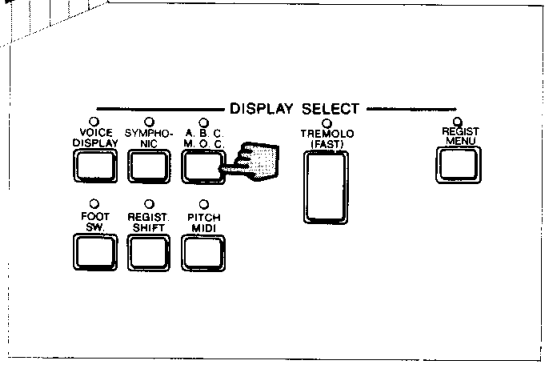
タイプ1：最大2音までのハーモニーが、メロディーに近い音域で発音します。
タイプ2：最大3音までのハーモニーが、メロディーに近い音域で発音します。
タイプ3：最大4音までのハーモニーが、メロディーからやや離れた音域で発音します。

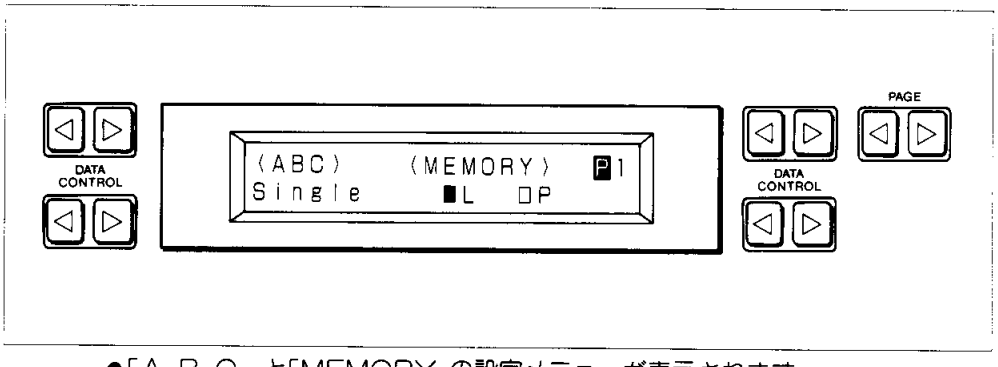
操作方法

メロディーオンコードの設定は、オフ、タイプ1～3の中から、「TYPE 2」(タイプ2)を選ぶ操作を例にして説明します。



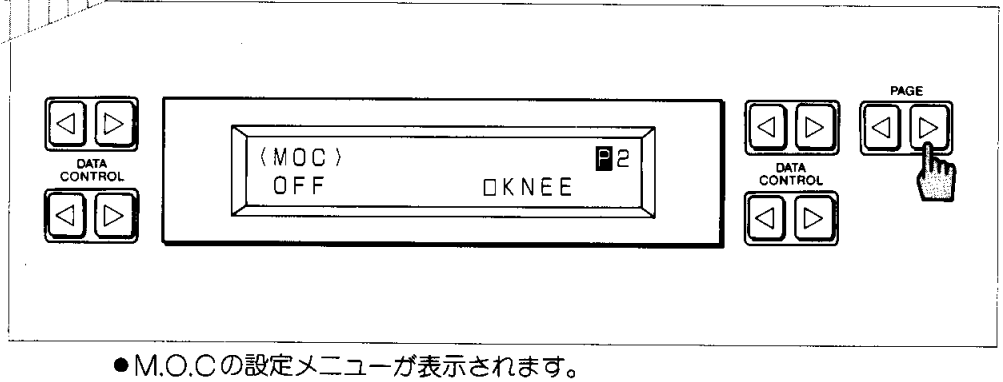
1 〔A.B.C./M.O.C.〕(オートベースコード／メロディーオンコード)ボタンを押します。





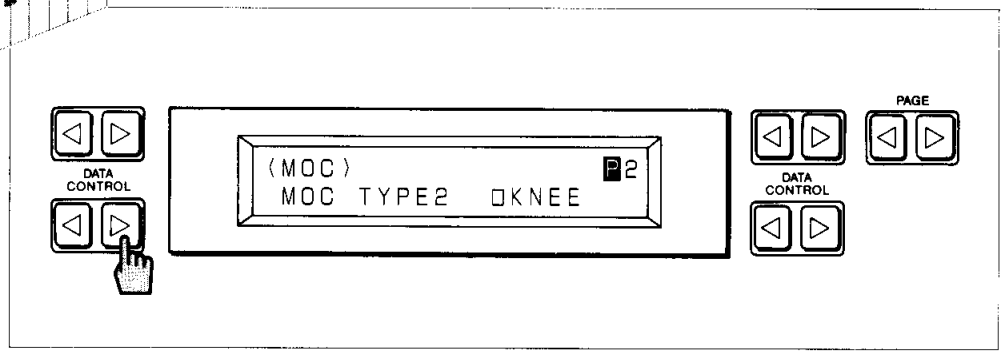
●「A.B.C.」と「MEMORY」の設定メニューが表示されます。

2 ページボタン〔▷〕を押して、2ページ目「P2」を表示させます。



●M.O.Cの設定メニューが表示されます。

3 左下のデータコントロールボタン〔▷〕を押して、M.O.C.モードを「M.O.C. TYPE 2」にします。



●右下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して「KNEE」(ニーレバー)の設定を「■」(オン)にしておくと、ニーレバーのオン／オフ操作によりハーモニー効果をオン／オフできます。

これで、M.O.C.モードの設定ができました。

こんなこともできる

○メロディーオンコードは、A.B.C.のメモリー設定で、「LOWER(ロワー)」をオンにして、リズムをスタートさせていると、下鍵盤から指を離しても、メロディーにハーモニーが付きます。

効果の種類について

機能説明

演奏する曲の曲調や好みに合わせて、効果をかけることができます。

効果一覧表

効果の一覧表です。

対象範囲	効果名	効果の解説	説明ページ	「対象範囲」の項の補足
全体	リバーブ	音に残響が付いて、ホールなどで演奏しているような感じになります。	P59	リズムを含む全ての音に一括してかけることが可能です。
音色群ごと	サステイン	離鍵後の音に余韻が付きます。	P60	アッパーキーボードボイス、ロワーキーボードボイス、ペダルボイスごとにかけることが可能です。
音色群ごと	トレモロ	音が高速で回転しているような感じになります。	P33、P77	アッパーキーボードボイス、リードボイス、ロワーキーボードボイス、ペダルボイスごとに、それぞれ2種類のどちらかの効果を選んでかけることが可能です。
	シンフォニック	複数の楽器で演奏しているような厚みと広がりのある感じになります。	P33、P78	
音色群ごと	ビブラート	音がふるえます。	P34	アッパーキーボードボイス、リードボイス、ロワーキーボードボイスごとにかけることが可能です。
音色群ごと	グライド	左フットスイッチをオンにしたときに音程が半音下がり、オフに戻すと徐々に元の音程に戻る効果。	P89	アッパーキーボードボイス、リードボイス、ロワーキーボードボイスごとにかけることが可能です。

●リバーブ～グライドを同時にかけることも可能です。ただし、1つの音色群に対してトレモロとシンフォニックの2つを同時にかけることはできません。

リバーブ(残響)効果

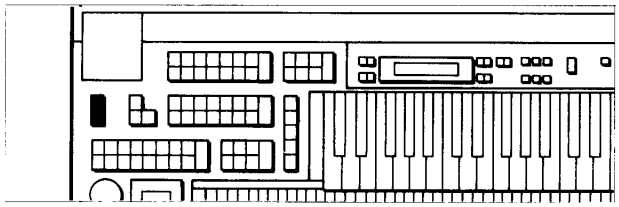
機能説明

全ての音に対してかかるリバーブ効果の深さ(強さ)を調節できます。

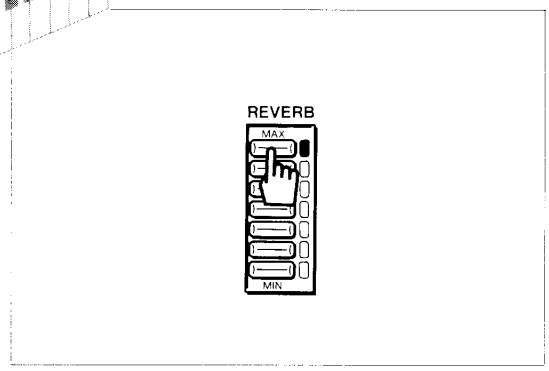
- リバーブ効果は、リズムやアカンパニメント、オートベースコードの音なども含めて、全ての音にかかります。
- 設定した深さを他の設定といっしょに記憶させておきたい場合は、電源を切る前にメモリーボタン〔1〕〜〔8〕のいずれかに記憶させてください。(→P62参照)

操作方法

リバーブ効果を最も深くかける操作を例にして説明します。



1 リバーブボタンを押します。



- 最上段のランプが点灯します。
- これでリバーブ効果は、最も深くかかるようになりました。
- リバーブ効果をかけたくない場合は、1番下のボタンを押します。

これで、リバーブ効果を最も深くかけることができました。

サステイン(余韻)効果

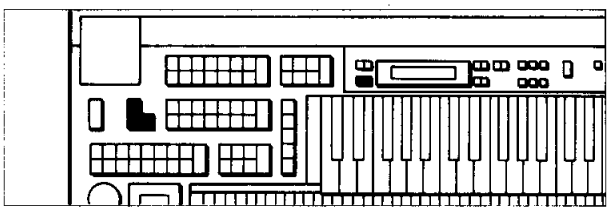
機能説明

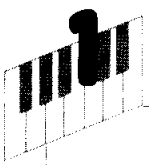
アッパーキーボードボイスで選んだ音、ロワーキーボードボイスで選んだ音、ペダルボイスで選んだ音に対してサステイン(余韻)効果をかけることができます。

- サステインの設定状態は、その音色群のどの音色にも共通した設定になります。
- サステインの設定状態を他の設定といっしょに記憶させておきたい場合は、電源を切る前にメモリーボタン〔1〕〜〔8〕のいずれかに記憶させてください。(→P62参照)

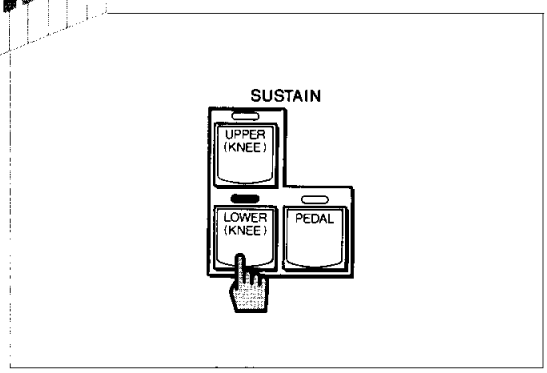
操作方法

ロワーキーボードボイスで選んだ音に対して、余韻の長さ「12」のサステイン効果をかける操作を例にして説明します。
他の音色にかける場合も、操作は同様です。

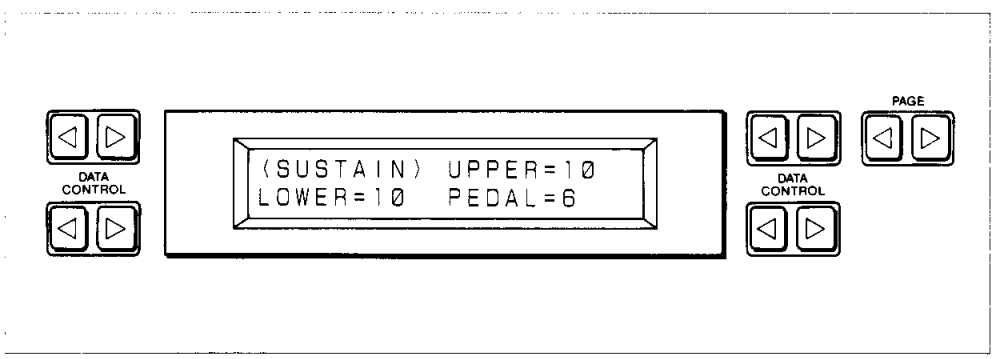




サステインの〔LOWER〕(ロワー)ボタンを押します。

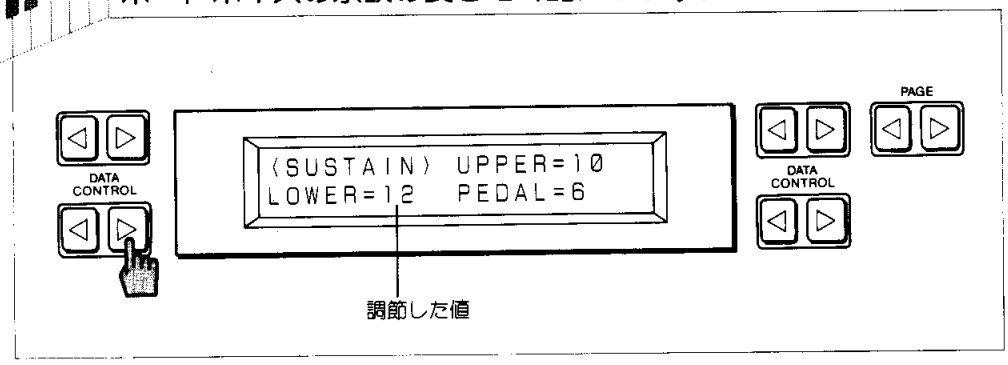


- 〔LOWER〕(ロワー) ボタンのランプが点灯します。



- サステイン効果の余韻の長さが表示されます。

2 左下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、ロワーキーボードボイスの余韻の長さを「12」にします。



- 0～12の範囲で調節できます。
- 値を大きくするほど、余韻の長さが長くなります。

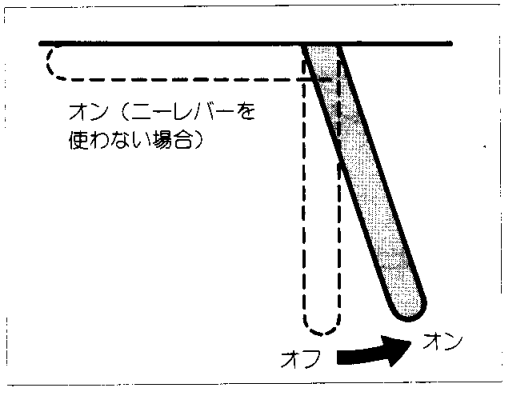
これで、余韻の長さ「12」でサステイン効果がかかるようになりました。

操作のポイント

- それぞれの余韻の長さをあらかじめ設定しておき、サステイン効果をかけるときだけ、該当するサステインボタンを押します。

こんなこともできる

○ニーレバーを使うと、演奏中にかけたいときに、サステイン効果をかけることができます。



①ニーレバーをオフ(真下)の位置にします。
②サステインをかける間、右ひざで右（オン）方向に倒します。

○サステインボタンがオンになっていなければ、ニーレバーをオンにしてもサステイン効果はかかりません。
○ニーレバーでオン／オフの操作をしない場合は、必ずたたんだ状態にしておいてください。

○余韻の長さを極端に短くすると、ギターなど減衰系の音色のときに、元の音よりも余韻が短くなることがあります。この特性を利用して使うのもアイデアです。
○残しておきたい設定は、電源を切る前にレジストレーションメモリーボタンに記憶させておくと便利です。

レジストレーションをメモリーボタンに記憶させる

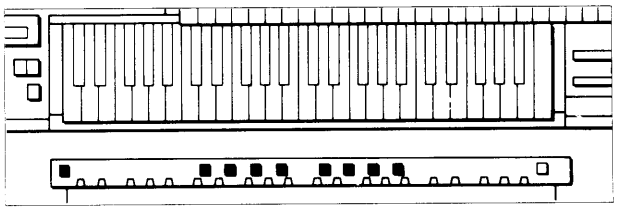
機能説明

パネル上で設定した現在の状態を、メモリーボタン〔1〕〜〔8〕に記憶させることができます。
音色名、音色に関する設定、リズム名、リズムに関する設定、効果に関する設定を1つにまとめて記憶させることができます。

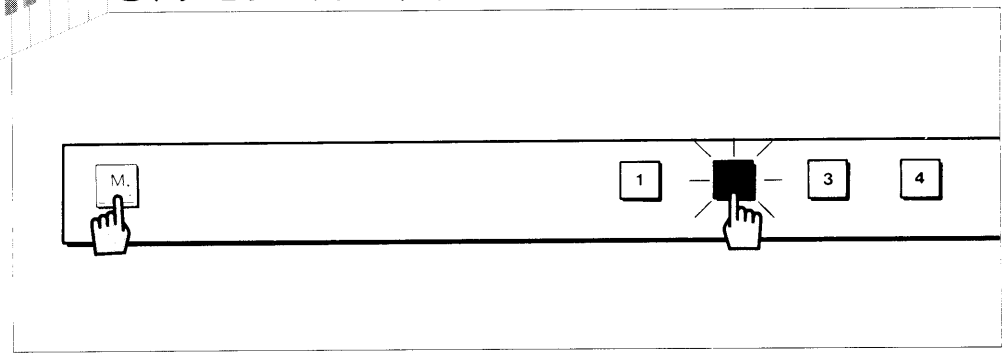
- メモリーボタン〔1〕〜〔8〕それぞれに記憶させることができます。
- 曲ごとに、または曲の1つの場面ごとに記憶させると便利です。
- 簡単な操作で、記憶させた状態(レジストレーション)を呼び出すことができます。

操作方法

メモリーボタン〔2〕に記憶させる操作を例にして説明します。
他のボタンに記憶させる場合も、操作は同様です。



1 〔M./TO DISK〕(メモリー/トゥーディスク)ボタンを押しながら、メモリーボタン〔2〕を押します。



- メモリーボタン〔2〕が一瞬点滅して、現在のパネル状態が記憶されたことを示します。

これで、現在設定されている音色やリズムなどの状態がメモリーボタン〔2〕に記憶されました。

こんなこともできる

○オプションのミュージックディスクレコーダーMDR-10を取り付けると、メモリーボタン〔1〕〜〔8〕に記憶させた状態(レジストレーション)を、さらに録音用フロッピーディスクに記録することができます。これにより、フロッピーディスクに、〔1〕〜〔8〕の組み合わせを何通りも記録させることができます。(→P92参照)

注意

- メモリーボタン〔1〕〜〔8〕を押す前に〔M./TO DISK〕(メモリー/トゥーディスク)ボタンを離してしまうと、記憶されません。
- 記憶させると、それまでのボタンに記憶されていた状態は消えます。
- 現在設定されている音色やリズムなどの状態を残しておきたい場合は、電源を切る前に忘れずに記憶させてください。

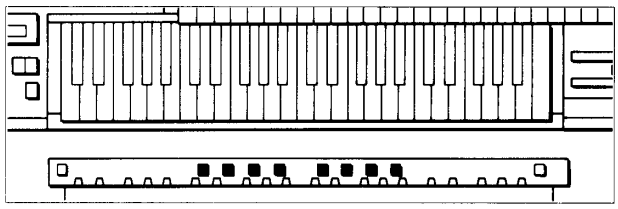
■記憶させたレジストレーションを呼び出す

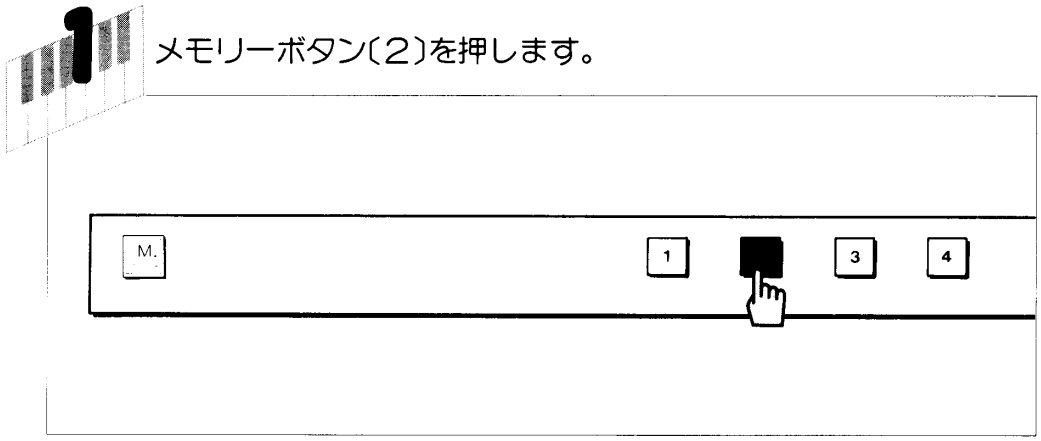
機能説明

メモリーボタン〔1〕〜〔8〕に記憶させた状態(レジストレーション)を呼び出して、使用できます。
音色名、音色に関する設定、リズム名、リズムに関する設定、効果に関する設定が再現されます。

操作方法

メモリーボタン〔2〕に記憶させたレジストレーションを呼び出す操作を例にして説明します。
他のボタンのレジストレーションを呼び出す場合も、操作は同様です。





●メモリーボタン〔2〕が点灯します。

これで、記憶されていた状態が呼び出され、メモリーボタン〔2〕の状態で演奏できるようになりました。

こんなこともできる

○レジストシフトの機能を使えば、右フットスイッチの操作でレジストレーションを呼び出すことができます。(→P83参照)
○オプションのミュージックディスクレコーダーMDR-10を取り付けると、録音用フロッピーディスクに記録したレジストレーションを呼び出して、使用することができます。(→P 92参照)
○メモリーボタン〔1〕〜〔8〕に記憶させないで電源を切ってしまった後、電源を切る前の状態に戻したいときは、まず電源を入れ、〔M./TO DISK〕(メモリー/トゥーディスク)ボタンを押しながら、〔D.〕(ディセーブル)ボタンを押します。

注意 ●電源を入れた時点では、必ず基本レジストレーション1になります。

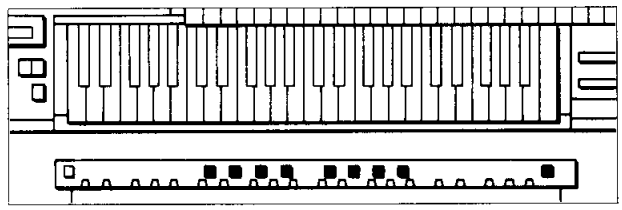
■ディセーブルについて

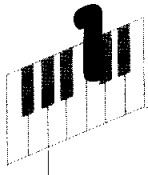
機能説明

メモリーボタン〔1〕〜〔8〕に記憶させた状態(レジストレーション)のうち、音色名と効果に関する設定だけを呼び出すことができます。
リズム名、テンポなどのリズムに関する設定は変えないで演奏できます。

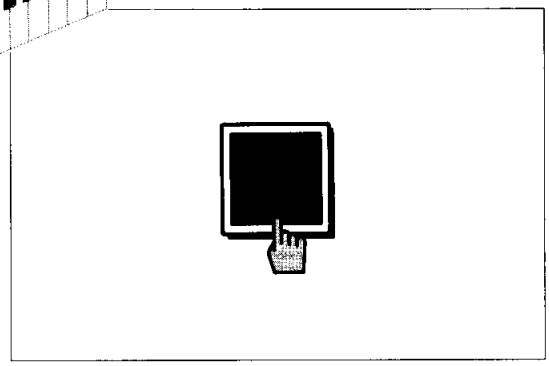
操作方法

メモリーボタン〔3〕に記憶されている音色名と効果に関する設定を呼び出す操作を例にして説明します。



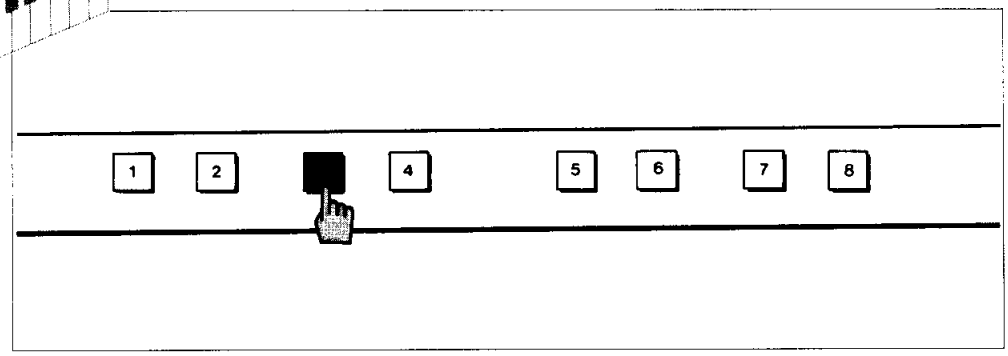


〔D.〕(ディセーブル)ボタンを押します。



●〔D.〕(ディセーブル)ボタンが点灯して、リズムに関する設定は、メモリーボタンを押しても変わらなくなります。

メモリーボタン〔3〕を押します。



●メモリーボタン〔3〕が点灯します。

これで、メモリーボタン(3)の音色名と効果に関する設定だけが呼び出されました。

操作のポイント

●この機能は、〔D.〕(ディセーブル)ボタンのランプを消灯させるまで、全てのレジストレーションに対して働きます。

注意
●電源を入れた時点では、基本レジストレーション1に戻ります。
(この機能も解除されます。)

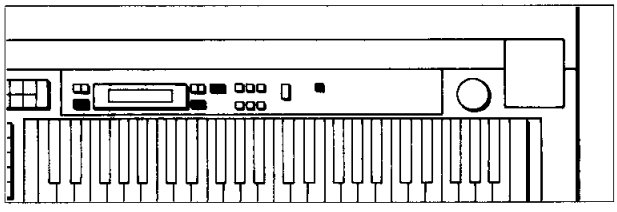
レジストレーションメニューを使う

機能説明

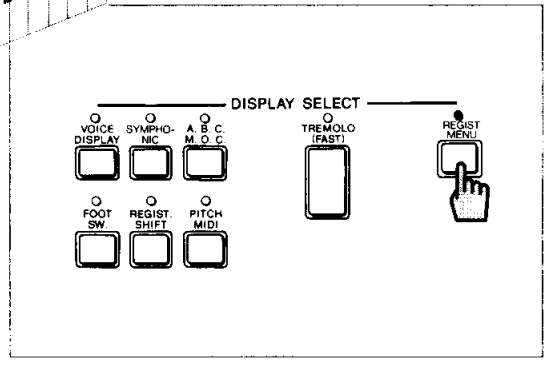
レジストレーションメニューから、基本レジストレーションとは設定が異なるレジストレーションを呼び出して、使用できます。
20種類×2ページ=40種類のレジストレーションが記憶されています。
●レジストレーション一覧表がP66にあります。

操作方法

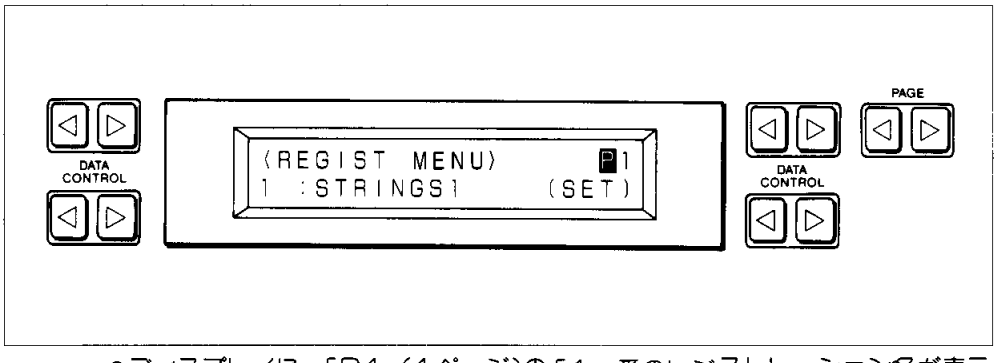
レジストレーションメニューの中から、「P2」の「4：Waltz 1」レジストレーションを呼び出す操作を例にして説明します。
他のレジストレーションを呼び出す場合も、操作は同様です。



1 〔REGIST. MENU〕(レジストメニュー)ボタンを押します。

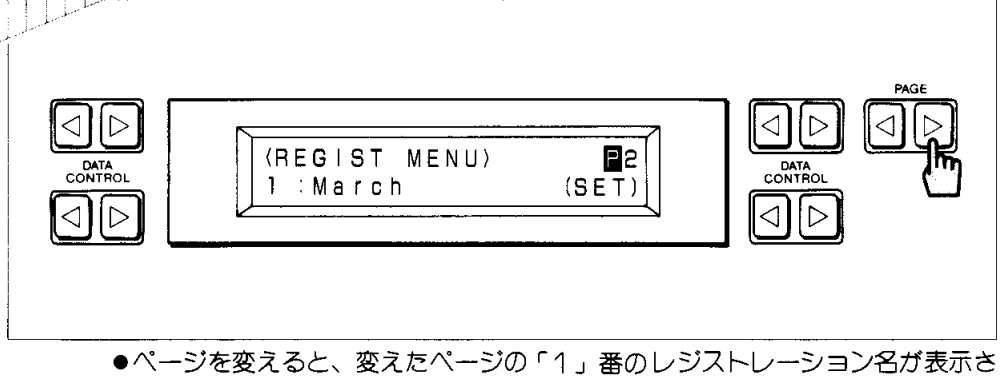


●〔REGIST. MENU〕(レジストメニュー)ボタンを押すと、ランプが点灯します。



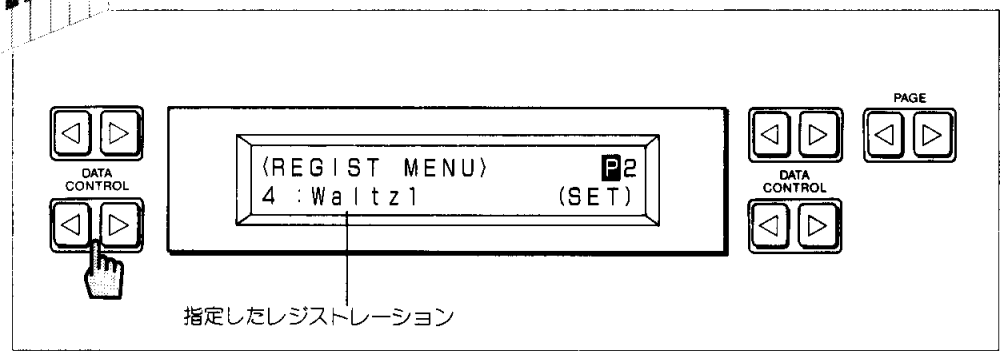
●ディスプレイに、「P1」(1ページ)の「1」番のレジストレーション名が表示されます。

2 ページボタン〔◁〕〔▷〕を押して、「P2」にします。



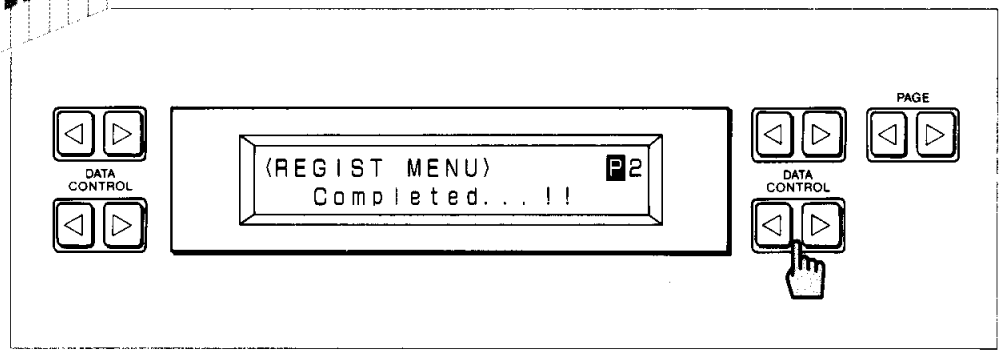
●ページを変えると、変えたページの「1」番のレジストレーション名が表示されます。
●「P1」と「P2」のページがあります。

3 左下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、「4：Waltz 1」にします。



●ページごとに、「1」〜「20」番のレジストレーションがあります。

4 右下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、表示させたレジストレーションを呼び出します。



●ディスプレイには、一瞬だけ「Completed...!!」が表示されます。

これで、「P2」の「4：Waltz 1」のレジストレーションを呼び出すことができました。

こんなこともできる

○レジストレーションメニューから呼び出したレジストレーションを、EL-30のメモリーボタン〔1〕〜〔8〕のいずれかに記憶させることができます。詳しくは、P62をご覧ください。

○〔REGIST. MENU〕(レジストメニュー)ボタン以外のボタンを押すと、押したボタンの表示に変わります。ただし、もう一度〔REGIST. MENU〕(レジストメニュー)ボタンを押せば、レジストレーションの最後の表示に戻ります。

レジストレーションの組み合わせと解説

ディスクのレジストレーション一覧表

EL-30のレジストレーションメニューには、40種類のレジストレーションが入っています。
(1)STRINGS(ストリングス)、BRASS(ブラス)、LEAD(リード)、DECAY(ディケイ)、SYNTH(シンセ)、Wedding(ウエディング)、X'mas(クリスマス)は各鍵盤に音色が設定され、サウンドイメージのレジストレーションになっています。
(2)リズム名のタイトルのレジストレーションメニューは、リズム/アカンパニメントでのレジストレーション設定になっています。
(3)適応曲例は各メニューに対応した曲の例です。

P1(ページ1)

番号	名称	サウンドイメージ	アッパーキーボードボイス	リードボイス	ロワーキーボードボイス	ペダルボイス	リズム(テンポ)	適応曲例
1	STRINGS1	ウィーン風シンフォニー	ストリングス	バイオリン	ホルン(8')	コントラバス	――	美しく青きドナウ
2	STRINGS2	ソロ・バイオリン	――	バイオリン	ストリングス	コントラバス	――	シューベルトのセレナーデ
3	STRINGS3	ポップクラシック	ストリングス	ハープシコード	ストリングス	エレクトリックベース	8ビート1(115)	ラバースコンチェルト
4	STRINGS4	ピチカートストリングス	ピチカートストリングス	ピチカートストリングス(4')	ピチカートストリングス	ピチカートストリングス	――	ピチカートポルカ
5	BRASS1	マーチングバンド	ブラス	トロンボーン	ブラス	チューバ	マーチ(120)	ハイホー
6	BRASS2	ソロ・トランペット	――	トランペット	ホルン	チューバ	――	ロトのテーマ
7	BRASS3	ビッグバンドサックスアンサンブル	サキソフォン	サキソフォン(8')	ピアノ	ピチカートベース	スイング1(136)	茶色の小びん
8	BRASS4	ディキシーランド・ジャズ	――	クラリネット	ピアノ	ピチカートベース	ディキシーランド(96)	5匹の子豚とチャールストン
9	LEAD1	木管アンサンブル	オーボエ	フルート	クラリネット	バスーン(8')	――	大きな古時計
10	LEAD2	クラシックフルート	――	フルート	ピチカートストリングス	コントラバス	――	メヌエット「アルルの女」より
11	LEAD3	メロウホイッスル	――	ホイッスル	エレクトリックピアノ	エレクトリックベース	8ビート1(78)	Somewhere Out There(「アメリカ物語」より)
12	LEAD4	ジャズオルガン	ジャズオルガン	ジャズオルガン(4')	ジャズオルガン(8')	オルガンベース	ボサノバ2(150)	サマーサンバ
13	DECAY1	アコースティックピアノ	ピアノ	――	ピアノ	ピチカートベース	――	トルコ行進曲
14	DECAY2	エレクトリックピアノ	エレクトリックピアノ	――	エレクトリックピアノ	エレクトリックベース	16ビート3(78)	サマーキャンドル
15	DECAY3	ラテンマリンバ	マリンバ	――	ピアノ	エレクトリックベース	サンバ1(125)	ティコティコ
16	DECAY4	日本の郷愁	ハープシコード	ハープシコード	ストリングス	コントラバス	――	日本昔ばなし
17	SYNTH1	シンセブラス	シンセブラス(8')	クラリネット	エレクトリックギター	エレクトリックベース(8')	8ビート1(130)	愛が止まらない
18	SYNTH2	ファンタジー	コズミック1(8')	ホイッスル	コズミック1(8')	コントラバス	――	タスマニア物語
19	SYNTH3	コズミックサウンド	コズミック2	マリンバ(4')	エレクトリックピアノ	エレクトリックベース	ダンスポップ(125)	バナナの親子
20	SYNTH4	シンセブラスオーケストラ	コズミック3	ホイッスル	コズミック3(8')	エレクトリックベース	バウンス1(125)	さんぽ(「となりのトトロ」より)

レジストレーションメニューの組み合わせと解説

P2(ページ2)

番号	名　称	リズムテンポ	アカンパニメント	アッパーキーボードボイス	リードボイス	ペダルボイス	適応曲例
1	March	120	4	ブラス	トランペット	チューバ	旧友
2	Polka	110	4	バスーン	フルート(4′)	ピチカートベース(16′)	ホルディリディア
3	Broadway	135	4	トランペット	ビブラフォン(4′)	ピチカートベース	踊り明かそう
4	Waltz 1	105	4	ストリングス	ストリングス(16′)	ピチカートベース	エデンの東
5	Waltz 2	180	2	ストリングス	バイオリン	ピチカートベース(16′)	こうもり序曲
6	Swing	160	3	ブラス	トランペット	ピチカートベース	A列車で行こう
7	Jazz Ballad	60	3	――	トロンボーン	ピチカートベース	テンダリー
8	Bounce	140	2	――	クラリネット	ピチカートベース(16′)	月光値千金
9	Reggae	132	4	マリンバ	――	エレクトリックベース(16′)	バナナボート
10	Slow Rock	80	1	エレクトリックギター	――	エレクトリックベース(16′)	雪国
11	Tango	120	1	ハーモニカ	ハーモニカ(16′)	ピチカートベース(16′)	ラ・クンパルシータ
12	Chacha	126	4	ピアノ(16′)	ピアノ(4′)	エレクトリックベース(16′)	ラストダンスは私に
13	Samba	120	1	サキソフォン	トランペット	エレクトリックベース(16′)	ブラジル
14	Bossanova	103	1	――	フルート	ピチカートベース(16′)	いそしぎ
15	8 beat 1	100	3	コズミック 2	ビブラフォン(4′)	エレクトリックベース(16′)	駅
16	8 beat 2	117	2	エレクトリックピアノ	――	エレクトリックベース(16′)	守ってあげたい
17	16Beat 1	85	4	――	フルート	エレクトリックベース(16′)	二人だけ
18	16Beat 2	124	4	シンセブラス	シンセブラス(16′)	エレクトリックベース(16′)	TAKE OFF

番号	名　称	サウンドイメージ	アッパーキーボードボイス	リードボイス	ロワーキーボードボイス	ペダルボイス	リズム	適応曲例
19	Wedding	ウエディング	オルガン	オルガン(4′)	オルガン(8′)	オルガンベース	――	ウエディングマーチ
20	X'mas	クリスマスソング	コズミック2(4′)	ビブラフォン(4′)	コントラバス	コントラバス	――	もろびとこぞりて

活用編

トゥーロワー
音色を下鍵盤に移す……70
ドットボタン
設定した音色をドットボタンに登録する……71
設定したリズムをドットボタンに登録する……74
効果(II)
トレモロ(ファースト)……77
シンフォニック……78
リズムプログラム・シーケンス
リズムプログラムシーケンスについて……80
フットスイッチ
フットスイッチについて……82
右フットスイッチ
レジストシフト……83
左フットスイッチ
リズム(ストップ/エンディング/フィルイン)……87
グライド……89
リセット
パワーオン・リセット……91

ミュージックディスクレコーダー
ミュージックディスクレーコーダー(MDR)について……92

音程/移調
音の高さを変える(ピッチ/トランスポーズ)……93
MIDI
MIDI端子について……95
MIDIを使うと……96
MIDIの設定……98
MIDIメッセージ一覧……104

トゥーロワー

音色を下鍵盤に移す

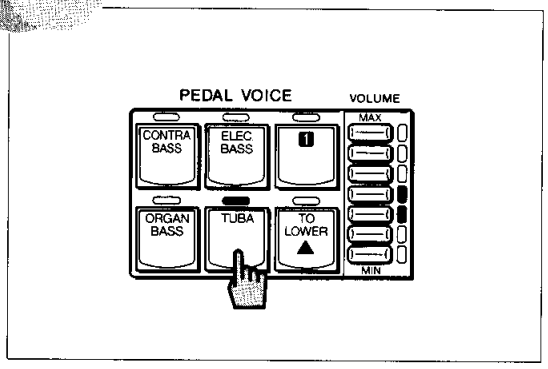
機能説明

トゥーロワーとは、リードボイスやペダルボイスの音色を、下鍵盤に移して発音できる機能です。移したリードボイスまたはペダルボイスの音色は、下鍵盤の音色（ロワーキーボードボイス）と同時に発音します。

操作方法

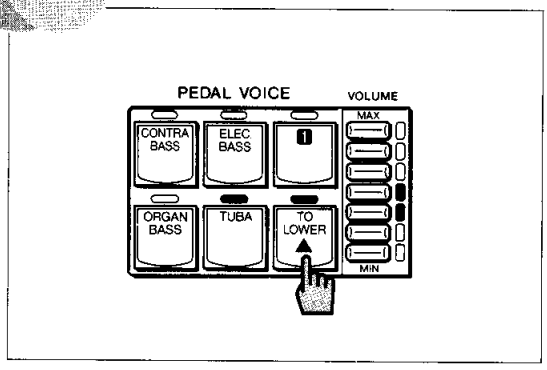
ペダルボイスの音色群の中から、「TUBA」(チューバ) の音色を選び、その音色を下鍵盤に移す操作を例にして説明します。

1 ペダルボイスの〔TUBA〕(チューバ) ボタンを押します。



●〔TUBA〕(チューバ) ボタンのランプが点灯します。

2 ペダルボイスの〔TO LOWER〕(トゥーロワー)ボタンを押します。



●ペダルボイスの〔TO LOWER〕(トゥーロワー)のボタンのランプが点灯します。

操作のポイント

●操作1で選んだ音色に効果をかけている場合は、下鍵盤へ移した音にも効果がかかっています。

●リードボイスの音色を下鍵盤に移したい場合は、リードボイスの〔TO LOWER〕(トゥーロワー) ボタンを押して、同じように操作します。

注意

●この機能を使って、リードボイスを移した場合は、上鍵盤を押さえてもリードボイスの音は発音されません。また、ペダルボイスを移した場合も、ペダル鍵盤を押さえてもペダルボイスの音は発音されません。

●〔TO LOWER〕(トゥーロワー) ボタンを押しても、ディスプレイの表示は変わりません。

設定した音色をドットボタンに登録する

機能説明

ドットボタンは、全ての音色の中で、よく使う音色を登録しておくことができるボタンです。
登録したドットボタンの内容は、ドットボタンを押すだけで、簡単に呼び出すことができます。
また、音色だけでなくリズムにもドットボタンがあります。リズムのドットボタンについては、P74をご覧ください。
各音色のドットボタンは、次の通りです。

音色群　アッパーキーボードボイス：ドットボタン〔1〕、〔2〕
ロワーキーボードボイス　：ドットボタン〔1〕、〔2〕
リードボイス　：ドットボタン〔1〕
ペダルボイス　：ドットボタン〔1〕

●音色名とドットボタンのページについて

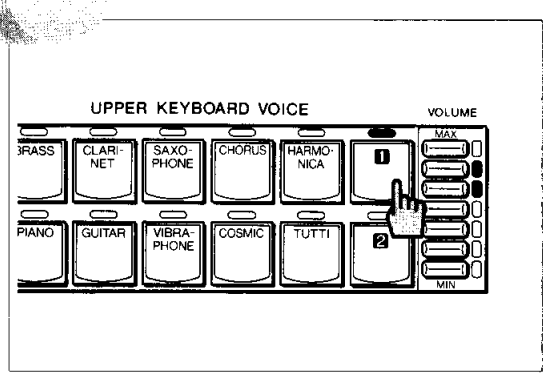
ページ	音色名
P1	STRINGS(ストリングス)
P2	VIOLIN(バイオリン)
P3	CONTRA BASS(コントラバス)
P4	BRASS(ブラス)
P5	HORN(ホルン)
P6	TRUMPET(トランペット)
P7	TUBA(チューバ)
P8	FLUTE(フルート)
P9	OBOE(オーボエ)
P10	CLARINET(クラリネット)
P11	SAXOPHONE(サキソフォン)

ページ	音色名
P12	TUTTI(トゥッティ)
P13	CHORUS(コーラス)
P14	HARMONICA(ハーモニカ)
P15	ORGAN(オルガン)
P16	ORGAN BASS(オルガンベース)
P17	PIANO(ピアノ)
P18	GUITAR(ギター)
P19	VIBRAPHONE(ビブラフォン)
P20	ELEC.BASS(エレクトリックベース)
P21	COSMIC(コズミック)
PUS	USER VOICE(ユーザーボイス)

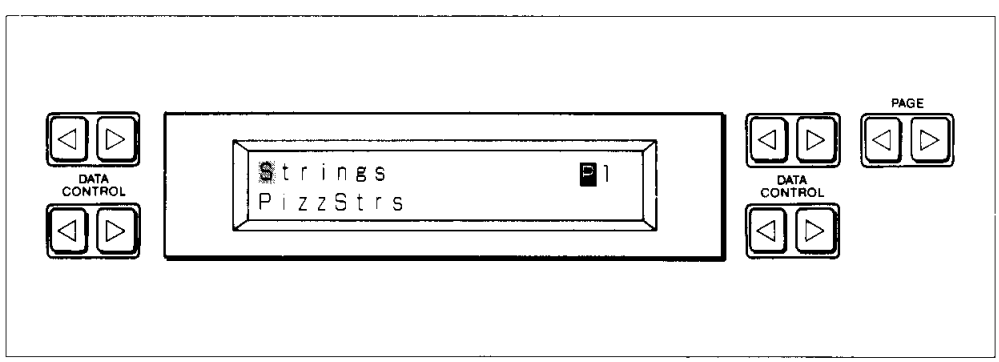
操作方法

アッパーキーボードボイスのドットボタン〔1〕に、6ページ中の「Trombone」(トロンボーン)を登録する操作を例にして説明します。

1 アッパーキーボードボイスのドットボタン〔1〕を押します。

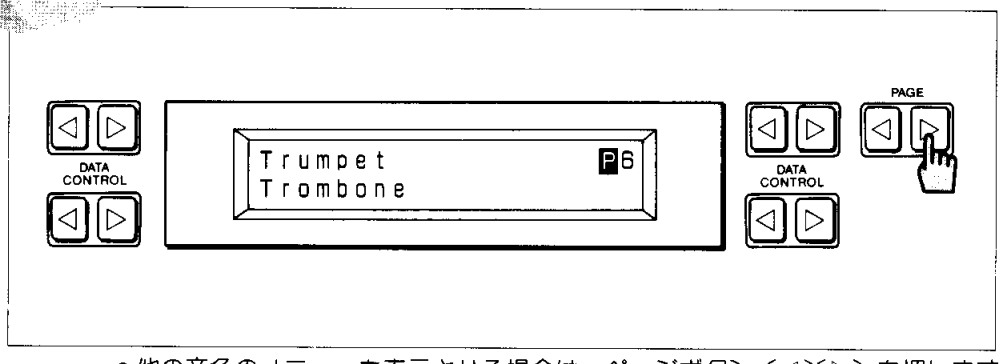


●ドットボタン〔1〕のランプが点灯します。
●アッパーキーボードボイスのドットボタン〔2〕や他の音色群のドットボタンに登録したい場合は、それぞれ登録したいドットボタンを押します。



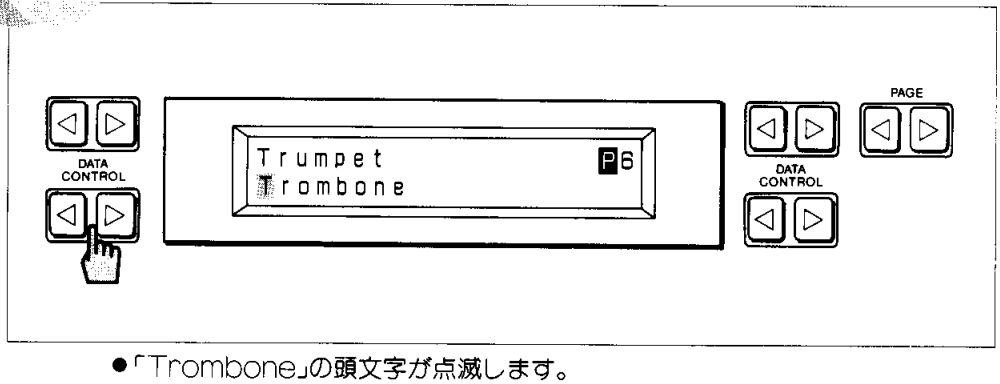
●アッパーキーボードボイスの音色名が表示され、前に登録した音色名の頭文字が点滅しています。

2 ページボタン〔▷〕を押して、6ページ目の「Trumpet」を選びます。



●他の音色のメニューを表示させる場合は、ページボタン〔◁〕〔▷〕を押します。

3 左下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、「Trombone」を選びます。



●「Trombone」の頭文字が点滅します。
●他の音色を選ぶ場合は、データコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押します。

これで、ドットボタン(1)に「Trombone」が登録されました。

●登録した音色を、もう一度呼び出すには、アッパーキーボードボイスのドットボタン(1)を押します。

ユーザーボイスについて

別売のEL-50/30用ボイスディスクの音色を、EL-30本体に移す場所の名称です。オプションのミュージックディスクレコーダーMDR-10を取り付けると共に、EL-50/30用ボイスディスクの取扱説明書をご覧ください)。

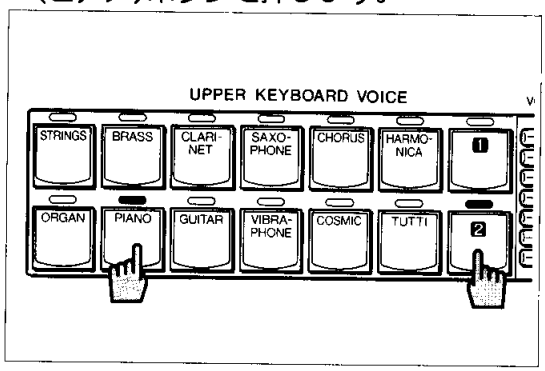
ドットボタンに登録した音色の同時発音数について

リードボイスやペダルボイスの音色を、アッパーキーボードボイスやロワーキーボードボイスのドットボタンに登録すると、上鍵盤と下鍵盤合わせて最大11音同時に発音させることが可能になります。
また逆にアッパーキーボードボイスやロワーキーボードボイスの音色を、リードボイスやペダルボイスのドットボタンに登録すると、1音だけの発音になります。

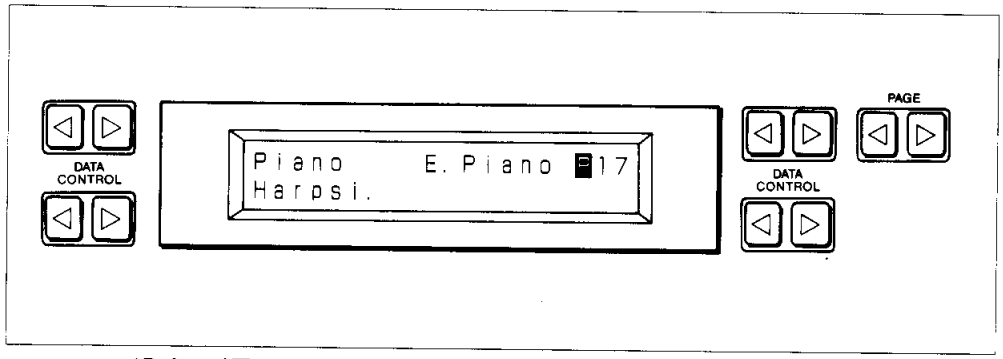
こんなこともできる

○登録したい音色のページをすぐに呼び出すことができます。

①アッパーキーボードボイスのドットボタン〔2〕を押しながら、〔PIANO〕(ピアノ)ボタンを押します。

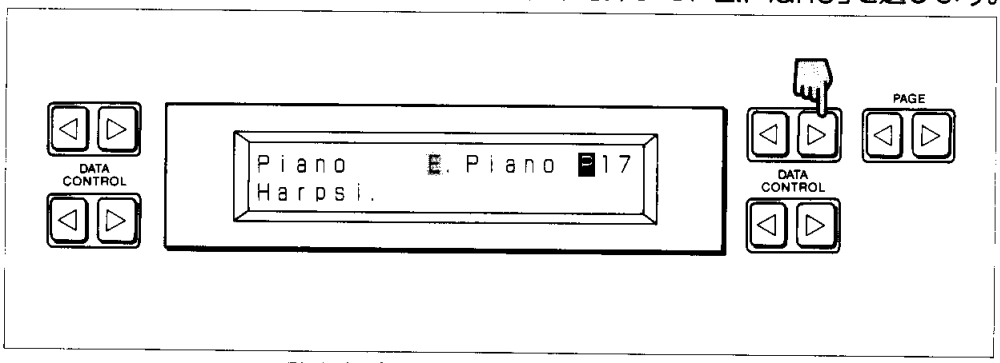


●他の音色を登録したい場合は、同じようにドットボタンを押しながら登録したい音色のボタンを押します。



●17ページ目のPIANOのメニューが表示されます。

②右上のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、「E.Piano」を選びます。



●「E.Piano」の頭文字が点滅します。

これで、ドットボタン(1)に「E.Piano」が登録できました。

注意

●ドットボタンに登録する場合、音色メニューのページに切り替えただけでは、前の設定のままです。
データコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、音色を選ぶまでの操作を行ってください。

設定したリズムをドットボタンに登録する

機能説明

ドットボタンとは、全てのリズムの中でよく使うリズム、またはEL-50などで作ったリズムを登録しておくことができるボタンです。
登録したドットボタンの内容は、ドットボタンを押すだけで、簡単に呼び出すことができます。
また、リズムだけでなく音色にもドットボタンがあります。音色のドットボタンについては、P71をご覧ください。
リズムのドットボタンは、次の通りです。
　　リズム：ドットボタン〔1〕、〔2〕

●リズム名とドットボタンのページについて

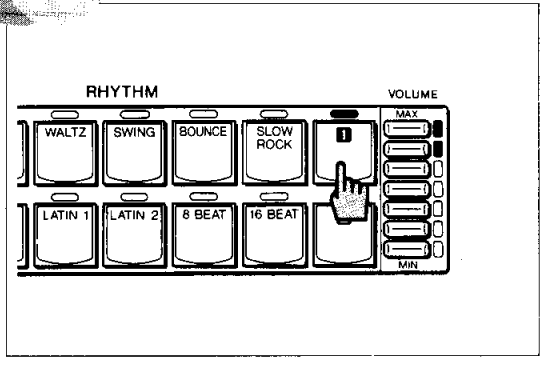
ページ	リズム名
P1	MARCH(マーチ)
P2	WALTZ(ワルツ)
P3	SWING(スイング)
P4	BOUNCE(バウンス)
P5	SLOW ROCK(スローロック)
P6	TANGO(タンゴ)

ページ	リズム名
P7	LATIN 1(ラテン 1)
P8	LATIN 2(ラテン 2)
P9	8 BEAT(8ビート)
P10	16 BEAT(16ビート)
PU1~8	USER 1~8(ユーザーリズム)

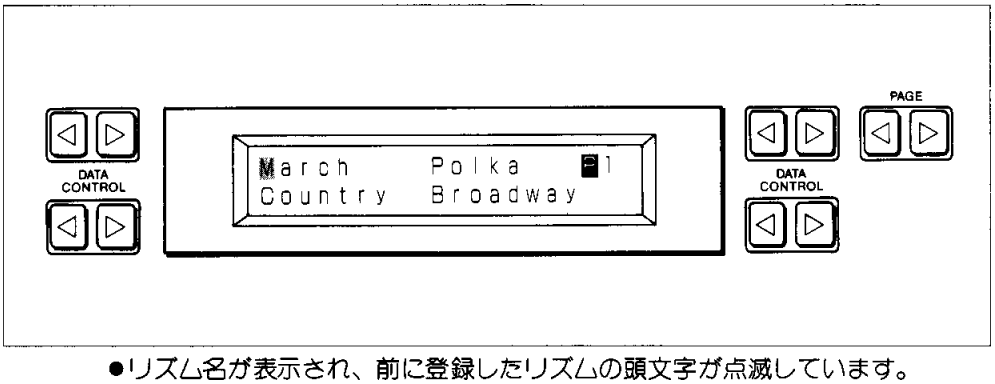
操作方法

リズムのドットボタン〔1〕に、3ページ目の「Swing 2」(スイング2) を登録する操作を例にして説明します。

1 リズムのドットボタン〔1〕を押します。

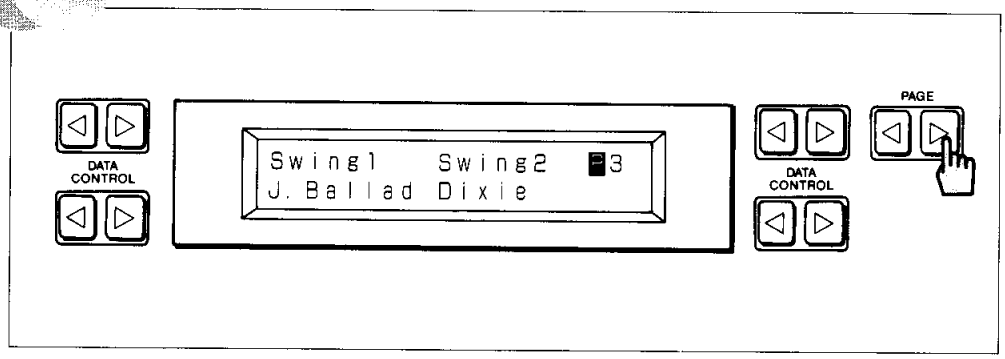


●ドットボタン〔1〕のランプが点灯します。
●リズムのドットボタン〔2〕に登録する場合は、ドットボタン〔2〕を押します。



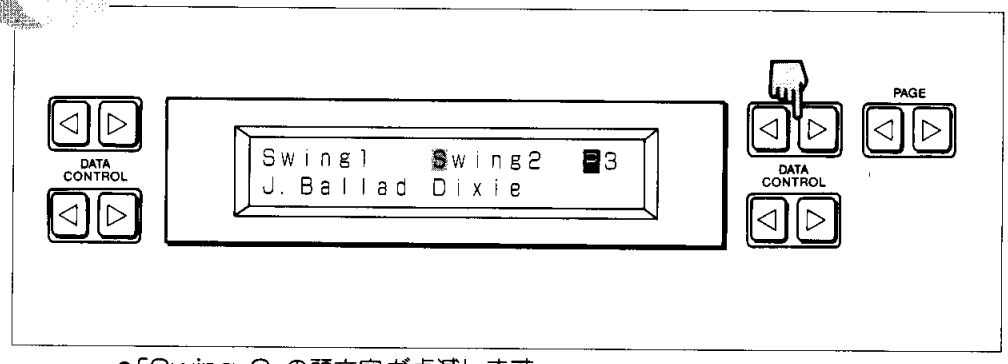
●リズム名が表示され、前に登録したリズムの頭文字が点滅しています。

2 ページボタン〔▷〕を押して、3ページ目の「Swing」を表示させます。



●他のリズムのメニューを表示させる場合は、ページボタン〔◁〕〔▷〕を押します。

3 右上のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、「Swing 2」を選びます。



●「Swing 2」の頭文字が点滅します。
●他のリズムを選ぶ場合は、データコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押します。

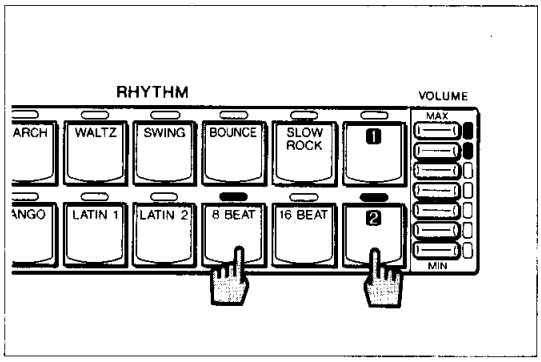
これで、ドットボタン(1)に「Swing 2」が登録されました。

●登録したリズムを、もう1度呼び出すには、リズムのドットボタン(1)を押します。

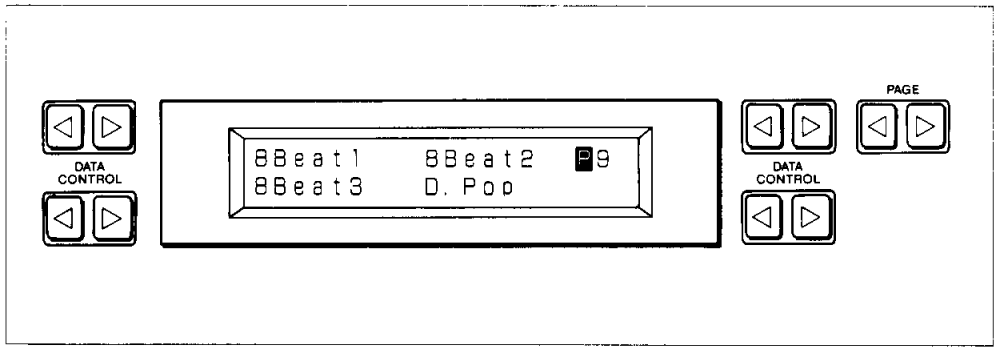
こんなこともできる

○登録したいリズムのページをすぐに呼び出すことができます。

①リズムのドットボタン〔2〕を押しながら、〔8 BEAT〕（8ビート）ボタンを押します。

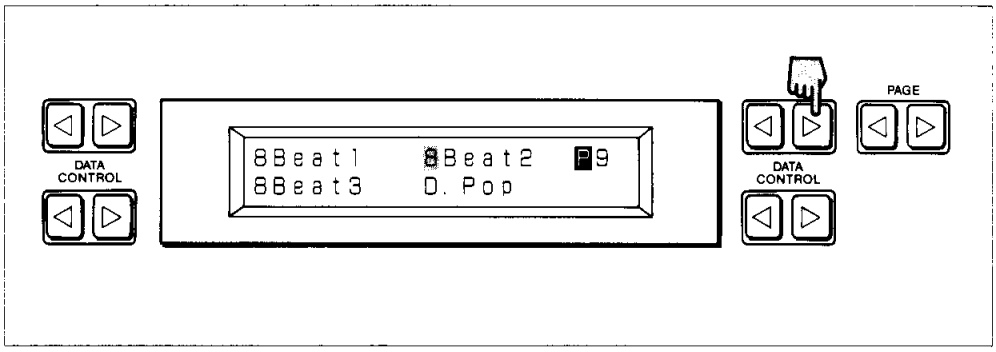


●他のリズムを登録したい場合は、ドットボタンを押しながら登録したいリズムのボタンを押します。



●9ページ目の8 Beatのメニューが表示されます。

②右上のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、「8Beat2」を選びます。



これで、ドットボタン(2)に「8 Beat 2」が登録できました。

トレモロ(ファースト)

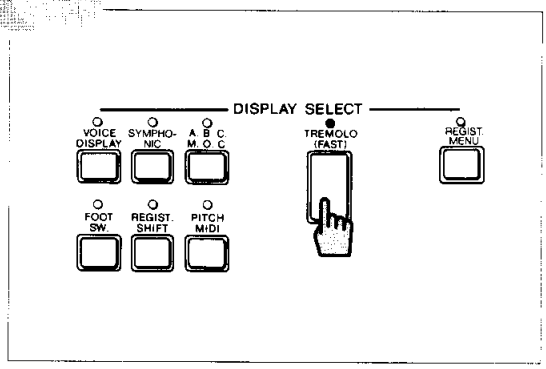
機能説明

トレモロ効果は、音が回転しているようにする機能です。

操作方法

現在使っている音色にトレモロの効果をかける操作を例にして説明します。

1 〔TREMOLO(FAST)〕(トレモロ(ファースト)) ボタンを押します。



●〔TREMOLO(FAST)〕(トレモロ(ファースト)) ボタンのランプが点灯します。

これで、トレモロ効果の設定が終了しました。

操作のポイント

●〔TREMOLO(FAST)〕(トレモロ(ファースト)) ボタンのランプが点灯している間は、トレモロ効果がかかります。
ランプが消えているときは、「コーラス」効果がかかっています。
(ボイスコンディションでエフェクトの設定が「TRM.」になっているときのみ)

注意

- トレモロ効果を設定する操作では、ディスプレイ表示は変わりません。
- トレモロまたはコーラス効果をかける場合は、音色の発音状態(ボイスコンディション)で、エフェクトの設定を「TRM.」にする必要があります。エフェクトが別の設定になっていると、ここでの操作をしても、トレモロまたはコーラス効果はかかりません。詳しくは、P33をご覧ください。
- 音色によっては、すでにトレモロ効果がかかっているものもあります。

効果(II)

シンフォニック

機能説明

シンフォニック効果のかかり方を設定することができます。シンフォニック効果は、複数の楽器で演奏しているような感じにする機能です。

●シンフォニック効果の設定には、次の種類があります。

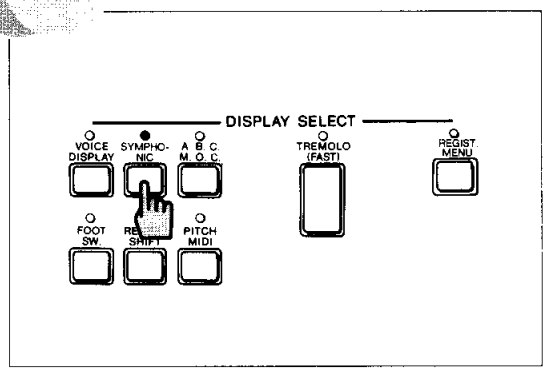
設　定	説　明
シンフォニック	複数の楽器で演奏しているような感じになります。
セ レ ス テ	シンフォニックのかかりが、ゆるやかになります。

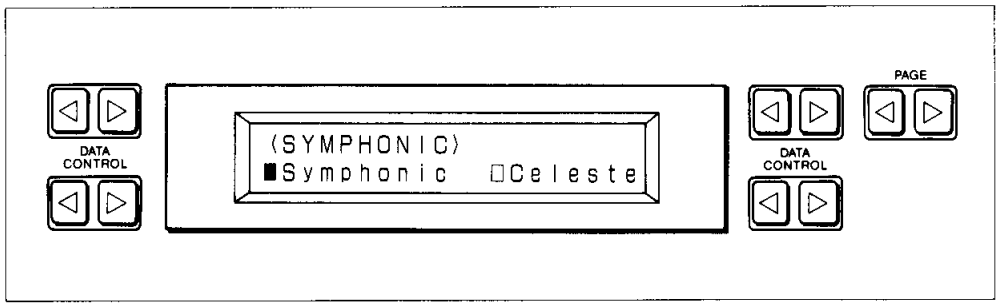
●シンフォニック効果をかけるには、P33の「ボイスコンディション」のエフェクトの設定で行います。

操作方法

シンフォニック／セレステの選択を「Celeste」にする操作を例にして説明します。

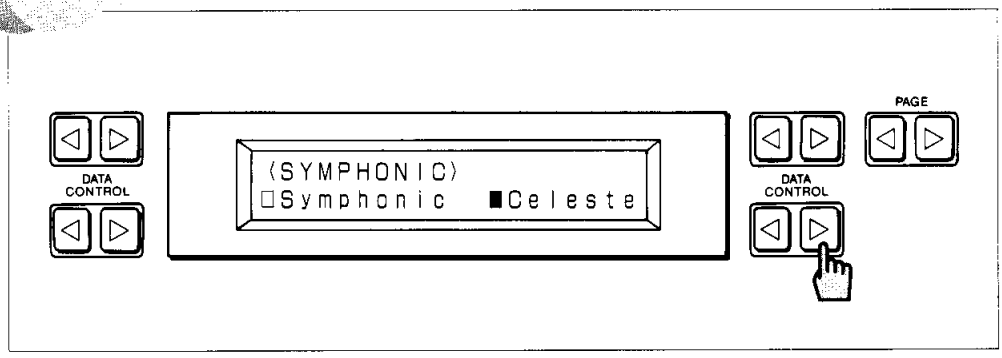
1 〔SYMPHONIC〕(シンフォニック)ボタンを押します。





●シンフォニックの設定メニューが表示されます。

2 右下または左下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、「Celeste」(セレステ)を「■」にします。



●「Symphonic」(シンフォニック)、「Celeste」(セレステ)のどちらかを選ぶことができます。

これで、シンフォニック効果の設定ができました。

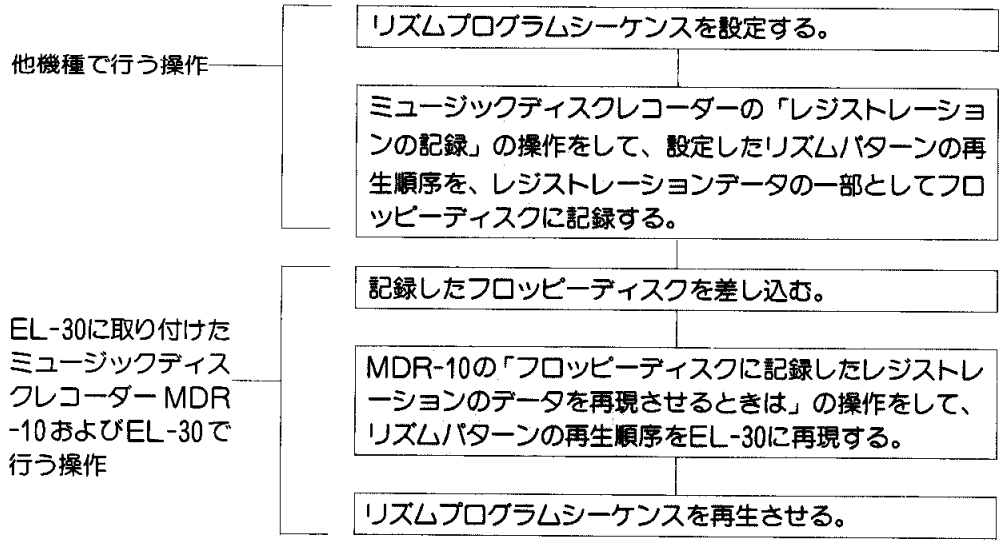
リズムプログラムシーケンスについて

機能説明

他機種のEL-50、EL-70、EL-90では、プリセットのリズムパターン(プリセット)または自分で作ったユーザーリズムパターンの再生順序を設定できますが、EL-30では、オプションのミュージックディスクレコーダーMDR-10を取り付けることにより、これを再生させることが可能です。

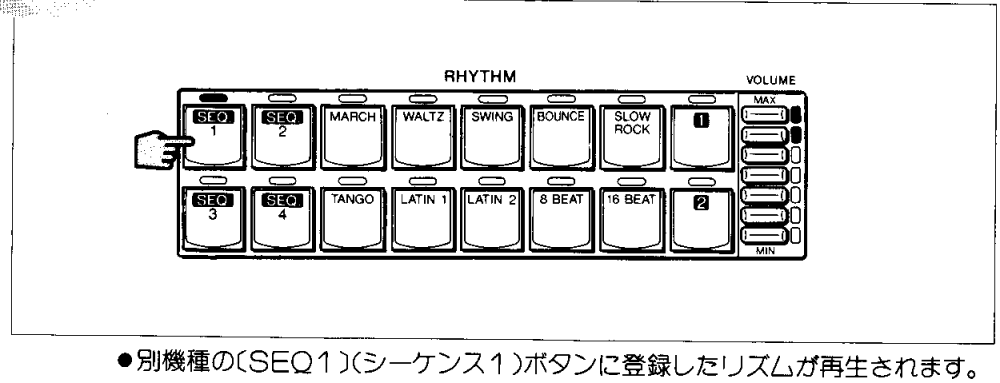
- [SEQ.](シーケンス)ボタンにリズムプログラムシーケンスを登録する前は、それぞれ次の内容が入っています。
  [SEQ.1](シーケンス1)ボタン：メトロノームの音が入っています。
  [SEQ.2](シーケンス2)ボタン：$\frac{2}{4}$拍子のカウントが入っています。
  [SEQ.3](シーケンス3)ボタン：$\frac{3}{4}$拍子のカウントが入っています。
  [SEQ.4](シーケンス4)ボタン：$\frac{4}{4}$拍子のカウントが入っています。
  シーケンスボタンを押し、リズムの[START](スタート)ボタンを押すと、リズムのテンポと連動して上記の内容が再生されます。

■基本的な操作の流れ



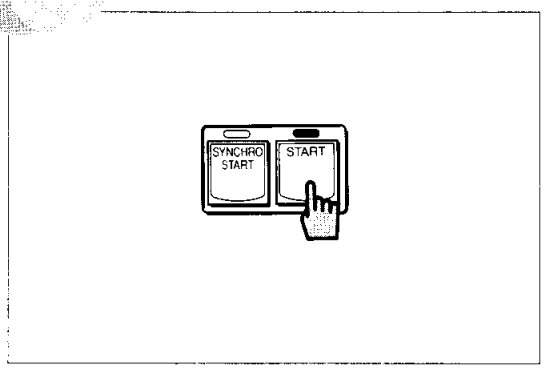
■リズムプログラムシーケンスを再生させる

1 再生するには、登録済みの〔SEQ 1〕(シーケンス1)ボタンを押します。



●別機種の〔SEQ1〕(シーケンス1)ボタンに登録したリズムが再生されます。

2 〔START〕(スタート)を押します。



●リズムがスタートすると、シーケンスに登録されているリズムパターンが順番に再生され、最後の設定が再生されるとリズムはストップします。

操作のポイント

●〔SEQ.〕(シーケンス)ボタン〔1〕〜〔4〕に設定した内容を、連続して再生することができます。リズムをスタートさせる前に、あらかじめ再生したいシーケンスボタンをすべて押しておいてください。

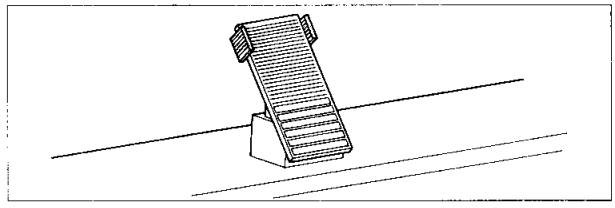
注意

●シーケンスデータの再生は、オプションのミュージックディスクレコーダーMDR-10を使用するか、またはMDR-3PのデータをMIDIで読み込むことにより可能です。
●MDR-10のデータとMDR-3Pのデータには互換性はありません。

フットスイッチについて

機能説明

フットスイッチとは、EL-30の足元にあるエクスプレッションペダルの左右についているスイッチのことです。



この左右のフットスイッチを使って、次のことができます。

スイッチ	ボタン名	モード名	機能説明
右フットスイッチ	(REGIST SHIFT) (レジストシフト)	シフト	1～8の番号順にレジストレーションを呼び出します。
		ユーザー	EL-50などで指定した番号順にレジストレーションを呼び出します。
左フットスイッチ	(FOOT SWITCH) (フットスイッチ)	リズム(ストップ/エンディング/フィルイン)	3つの中から指定したモードの機能を実行できます。
		グライド(リード/アッパー/ロワー)	指定した音色群にグライド効果をかけることができます。

レジストシフト

■レジストシフトの設定

機能説明

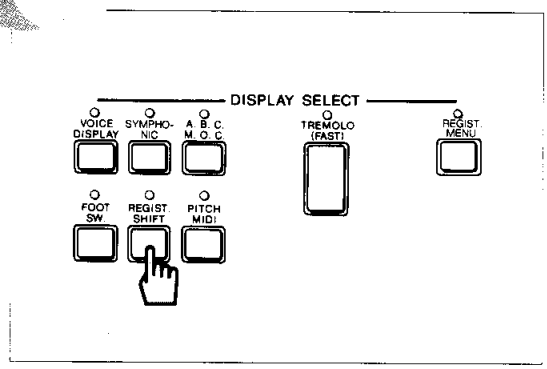
レジストシフトとは、エクスプレッションペダルの右フットスイッチを使って、設定したレジストレーションナンバーをコントロールする機能です。
レジストシフトの設定は、次の3つの種類から選びます。

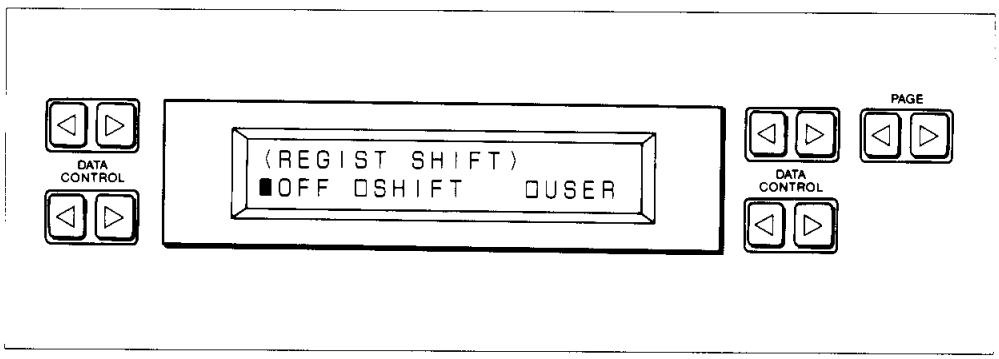
オフ　　：右フットスイッチを使っても、レジストシフトの機能が働かないように設定します。
シフトモード　：右フットスイッチを押すごとに、番号順（1～8）にレジストレーションメモリーナンバーを呼び出すことができます。
ユーザーモード：右フットスイッチを押すごとに、EL-50などで編集した番号順にレジストレーションナンバーを呼び出します。

操作方法

レジストシフトの設定として、「SHIFT」(シフト)モードにする操作を例にして説明します。

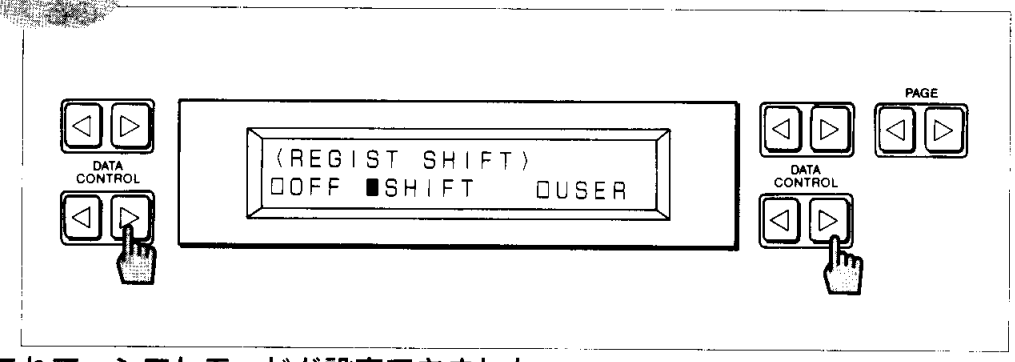
1 〔REGIST SHIFT〕(レジストシフト)ボタンを押します。





●ディスプレイには、レジストシフトの モードが表示されます。

2 下段のデータコントロールボタン〔▷〕を押して、シフトモードを「■」にします。



これで、シフトモードが設定できました。

- 他のモードを選択したい場合は、データコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、選択したい項目を「■」にします。

■ユーザーモードを使うための基本的な操作の流れ

ユーザーモードを使うためには、オプションのミュージックディスクレコーダーMDR-10を取り付けたり、他機種のEL-50、EL-70、EL-90で、レジストレーションの呼び出し順序を設定するなどの準備が必要です。

他機種で行う操作

1. レジストレーションの呼び出し順序を設定する。
2. ミュージックディスクレコーダーの「レジストレーションの記録」の操作をして、設定した呼び出し順序を、レジストレーションデータの一部としてフロッピーディスクに記録する。

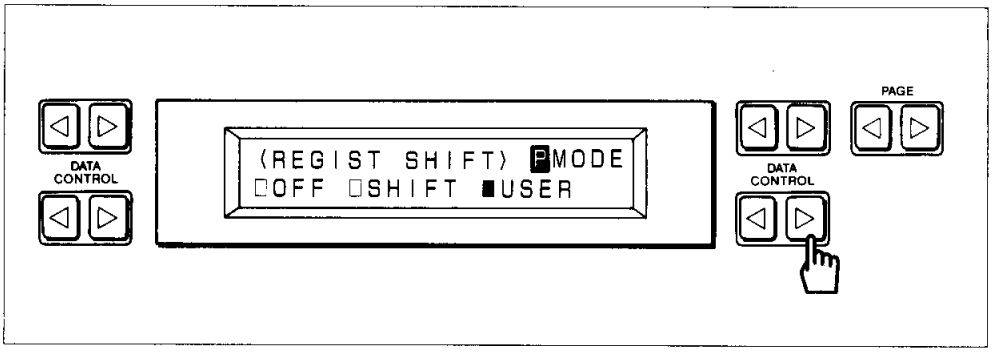
EL-30に取り付けたミュージックディスクレコーダーMDR-10およびEL-30で行う操作

3. 記録したフロッピーディスクを差し込む。
4. ミュージックディスクレコーダーの「フロッピーディスクに記録したレジストレーションのデータを再現させるときは」の操作をして、レジストレーションの呼び出し順序をEL-30に再現させる。
5. レジストシフトの設定をユーザーモードにする。
6. 再現させた呼び出し順序でレジストレーションを呼び出す。

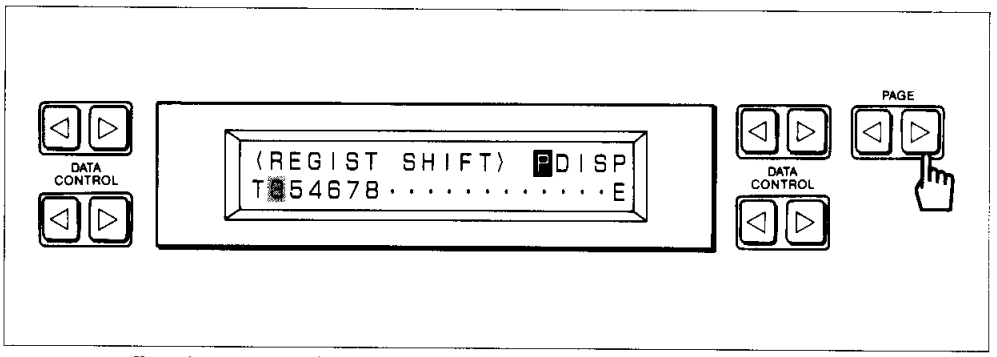
こんなこともできる

●ユーザーモードで、呼び出し順序の途中から呼び出せるように設定できます。

①ユーザーモードを「■」にします。

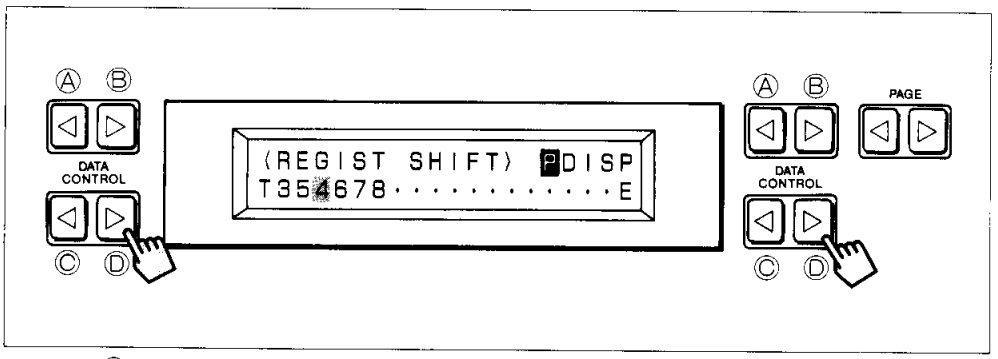


②ページボタン〔▷〕を押して、「DISP」のページを表示させます。



●EL-50などで設定したレジストレーションの呼び出し順序が表示されます。
●「T」とは、TOP(トップ)の意味です。
●「E」とは、END(エンド)の意味です。

③下段のデータコントロールボタン〔▷〕を押して、使用し始めるレジストレーションを点滅させます。



Ⓐ上段のデータコントロールボタン〔◁〕は、レジストレーションの先頭に移動します。
Ⓑ上段のデータコントロールボタン〔▷〕は、レジストレーションの最後に移動します。
Ⓒ下段のデータコントロールボタン〔◁〕は、1つ前のレジストレーションに移動します。
Ⓓ下段のデータコントロールボタン〔▷〕は、1つ後ろのレジストレーションに移動します。

リズム(ストップ/エンディング/フィルイン)

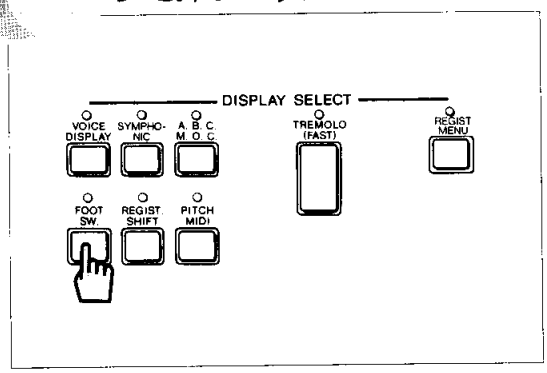
機能説明

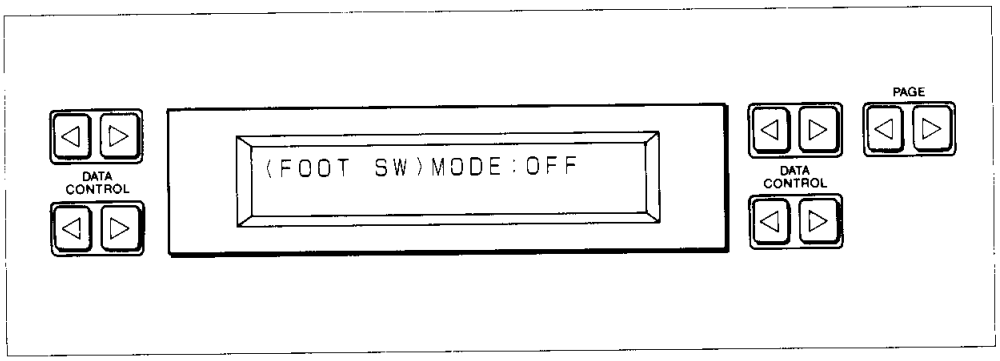
フットスイッチの設定は、左フットスイッチを使って、リズムをコントロールする機能です。
リズムをコントロールする方法は、左スイッチを押すごとにリズムがスタートする方法、ストップする方法、途中でリズムのフィルインパターンを入れる方法があり、そのどれか1つを選択します。

操作方法

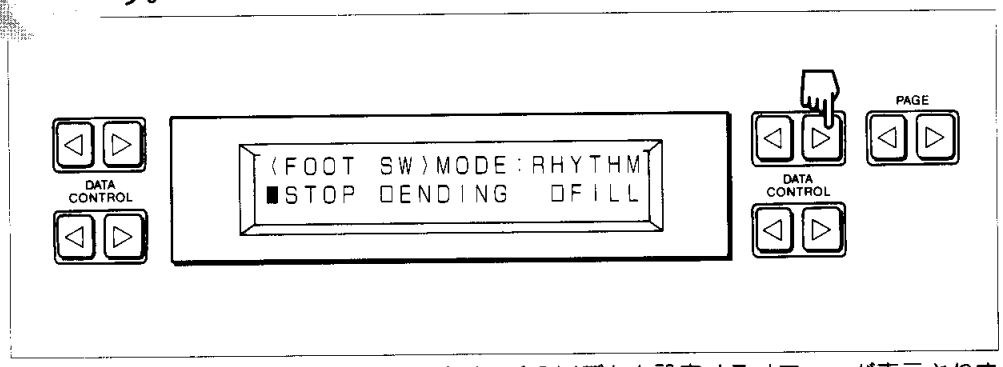
フットスイッチのリズムモードを選び、「FILL IN」(フィルイン)に設定する操作を例にして説明します。

1 ディスプレイセレクトの〔FOOT SW.〕(フットスイッチ)ボタンを押します。



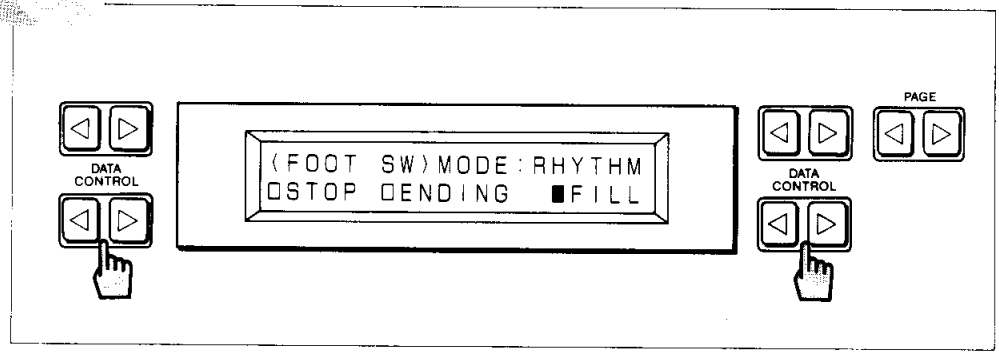


2 データコントロールボタン〔▷〕を押して、「RHYTHM」を選びます。



●ディスプレイには、フットスイッチのリズムを設定するメニューが表示されます。

3 下段のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、「FILL」を「■」にします。



これで、フットスイッチがフィルインに設定できました。

4 リズムを鳴らしている途中で、左フットスイッチを押すと、フィルインのリズムパターンが入ります。

グライド

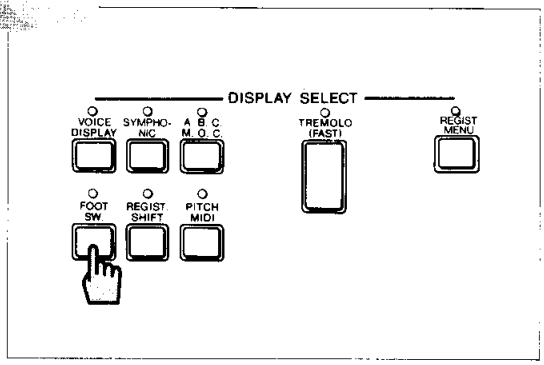
機能説明

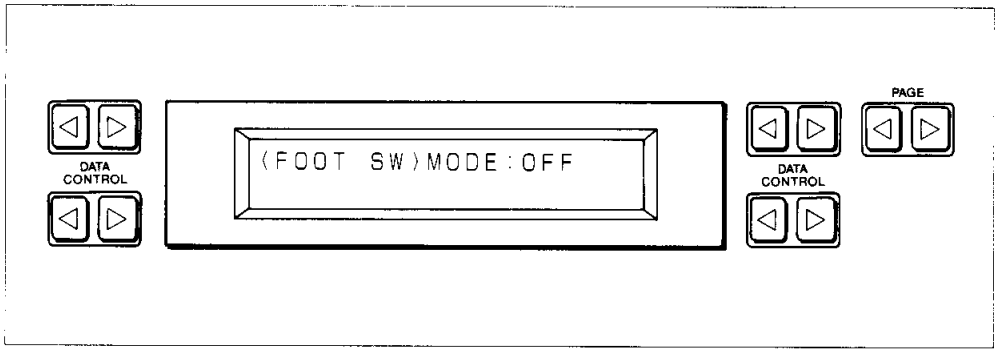
左フットスイッチを使って、グライド効果をかけることができます。
グライド効果とは、左フットスイッチを押すと、一時的に音程が半音下がり、左フットスイッチを離すと徐々に元の音程にもどる機能です。
グライド効果は、上鍵盤の音色(アッパーキーボードボイス、リードボイス)と下鍵盤の音色(ロワーキーボードボイス)にかけることができます。

操作方法

上鍵盤の音色（アッパーキーボードボイスとリードボイス）に、グライド効果をかける設定を例にして説明します。

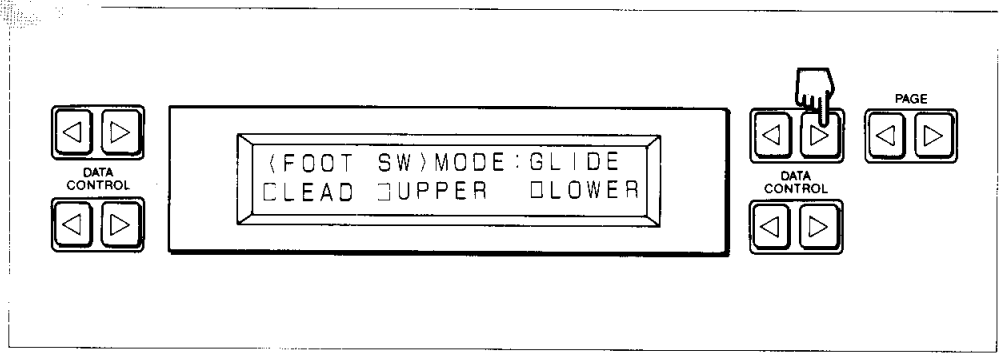
1 ディスプレイセレクトの〔FOOT S W.〕（フットスイッチ）ボタンを押します。





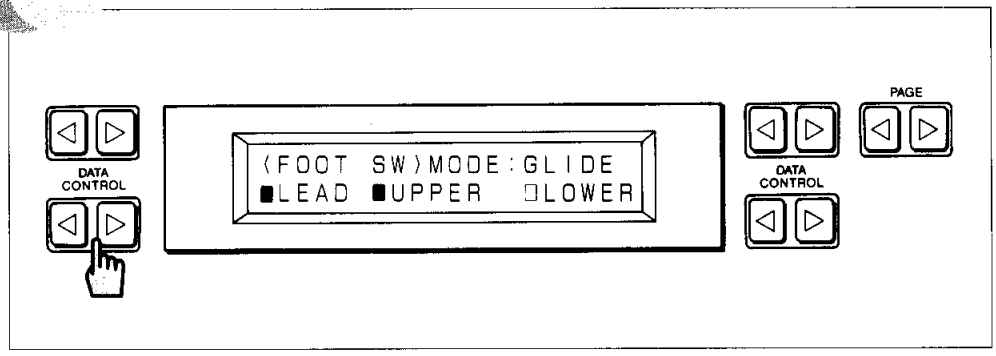
●ディスプレイには、フットスイッチを設定するメニューが表示されます。

2 右上のデータコントロールボタン〔▷〕を押して、「GLIDE」を選びます。



●ディスプレイには、フットスイッチのグライド効果を設定するメニューが表示されます。

3 左下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、「LEAD」と「UPPER」を「■」にします。



● 下鍵盤の音色にグライド効果をかけたい場合は、コントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、「LOWER」を「■」にします。

4 左フットスイッチを押すと、リードボイスとアッパーキーボードボイスにグライド効果がかかります。

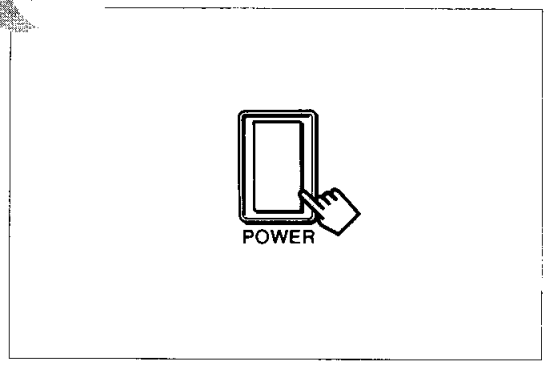
リセット
パワーオン・リセット

機能説明

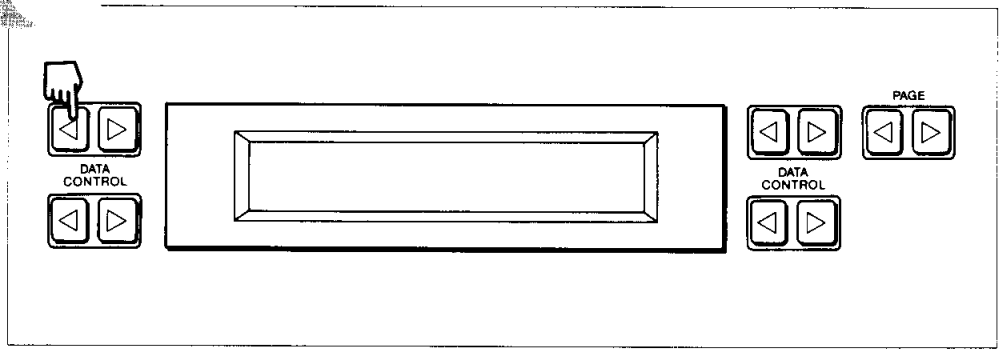
パワーオン・リセットは、EL-30をお買い求めになったときと同じ設定に戻すことができる機能です。

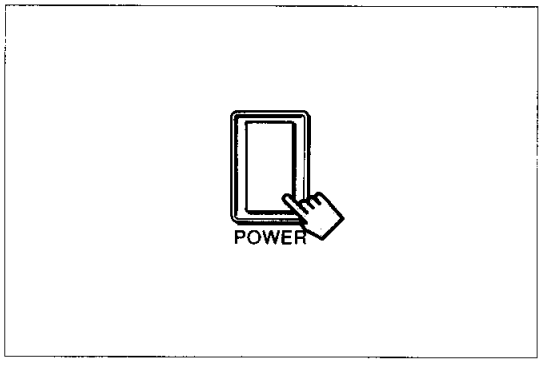
操作方法

1 パワースイッチを押して、電源を切ります。



2 左上のデータコントロールボタン(◁)を押しながら、パワースイッチを押します。





ミュージックディスクレコーダー(MDR)について

機能説明

EL-30にオプション(別売品)のミュージックディスクレコーダー(MDR-10)を取り付けると、フロッピーディスクを使って、レジストレーションのデータを記録したり、演奏を録音、再生させることができます。
ミュージックディスクレコーダーには、次の機能があります。

レジストレーションのデータをフロッピーディスクに記録する
- レジストレーションだけを記録する
- レジストレーションのデータだけを差し替える

エレクトーン演奏を録音、再生する
- 上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤の音をそれぞれ別に録音する
- エレクトーン演奏の録音を中断して、最初から録音し直す
- リードボイスの演奏だけを分離して録音、再生する
- キーボードパーカッションのリズムを録音する
- レジストレーションデータは再生せずに、演奏だけを再生する
- 再生中に一時停止をする、再生中に早送りまたは早戻しをする
- 録音した演奏の中から、特定の鍵盤の演奏だけを再生する
- フロッピーディスクに録音した全ての曲または、特定の1曲だけを繰り返し再生する
- 録音した曲のテンポを変える
- テンポを変更した後、録音したときのテンポに戻す
- すでに録音した曲を別のソングナンバーにコピーする
- 録音してある不要になった曲を削除する

EL-50などで作成したディスクを使う
- 作ったリズムを再生する
- 設定した順序でリズムを再生させる
- 設定した順序でレジストレーションを呼び出す

注意

●ミュージックディスクレコーダーMDR-3Pによるリズムプログラムシーケンスを再生させる場合は、次のようにしてください。
①EL-50、EL-70、EL-90にMDR-3Pを接続し、2DDのフロッピーディスクに、リズムプログラムシーケンスをレジストレーションの一部として記録します。
②EL-30にMDR-3Pを接続して、①で記録したレジストレーションを EL-30 に再現させます。

音の高さを変える(ピッチ/トランスポーズ)

機能説明

ピッチとは音の高さのことです。音の高さは、音の振動数（周波数）の多少によって決まります。音の高さを変える機能は、エレクトーンの音の高さを他の楽器に合わせるときに使います。

●音の高さを変えるための設定には次の種類があります。

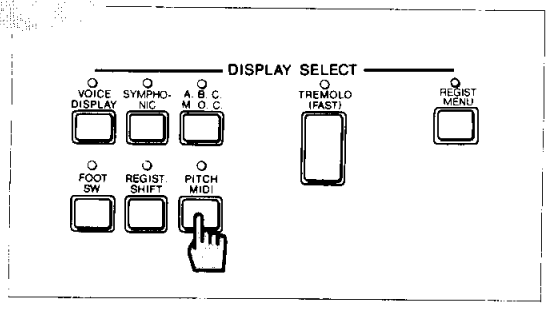
設　定	説　明
トランスポーズ	＋6～－6まで13段階に半音ずつ移調することができます。 0が音程の基です。＋にすると上がり、－にすると下がります。
ピッチ	＋15～－4（444.5Hz～438.8Hz）まで20段階に周波数を増減することができます。音の高さの変化幅は半音の4分の1程度です。

■トランスポーズ

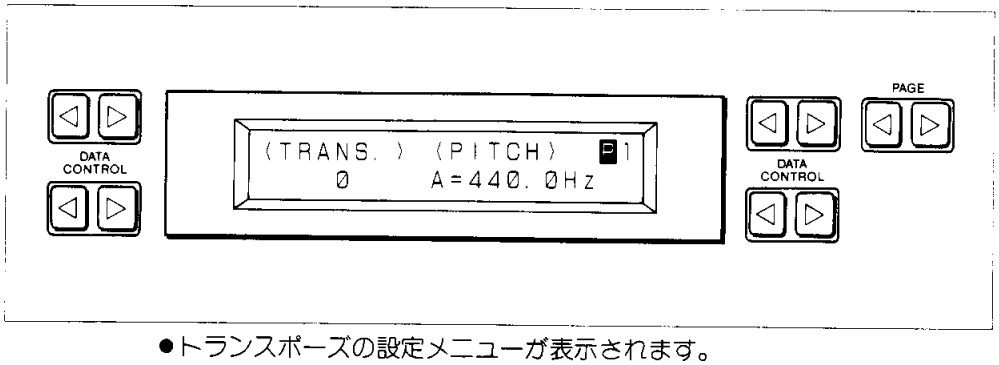
操作方法

トランスポーズを＋1にして音程を半音上げる操作を例にして説明します。

1 〔PITCH/MIDI〕（ピッチ／MIDI）ボタンを押します。

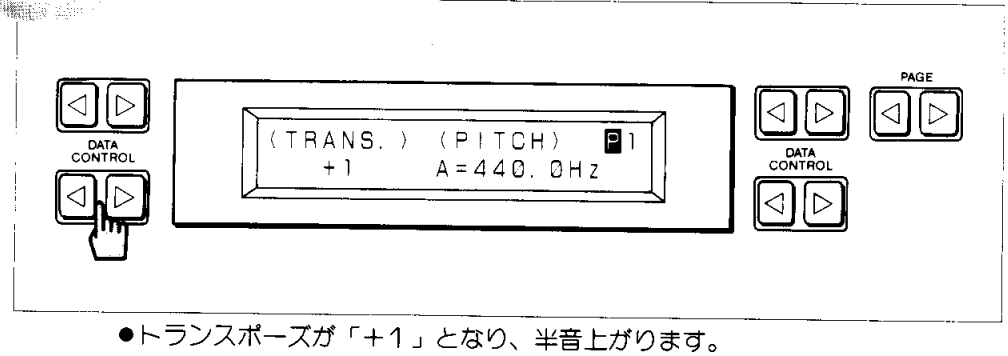


●〔PITCH/MIDI〕（ピッチ／MIDI）ボタンのランプが点灯します。



●トランスポーズの設定メニューが表示されます。

2 左側のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、トランスポーズを「＋1」に設定します。



●トランスポーズが「＋1」となり、半音上がります。

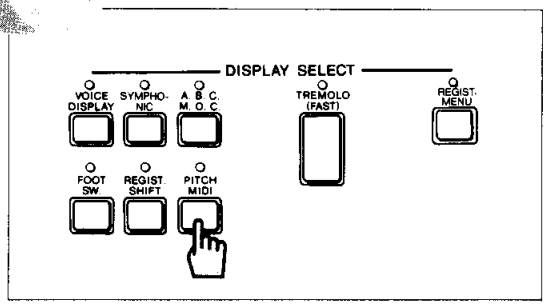
これで、トランスポーズの設定ができました。

■ピッチ

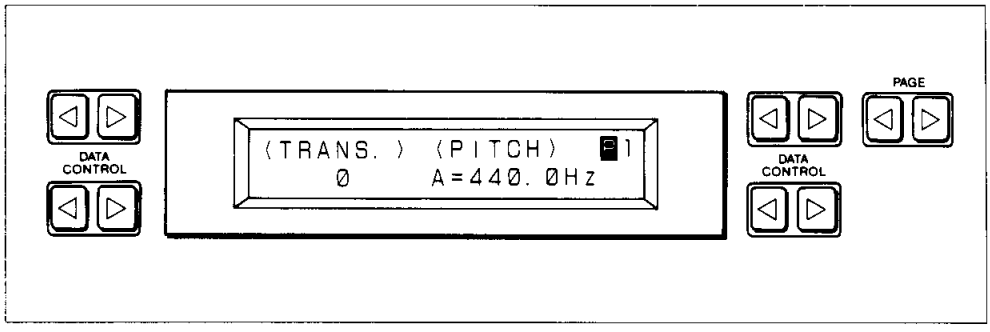
操作方法

周波数を1段階上げる操作を例にして説明します。

1 〔PITCH/MIDI〕(ピッチ／MIDI)ボタンを押します。

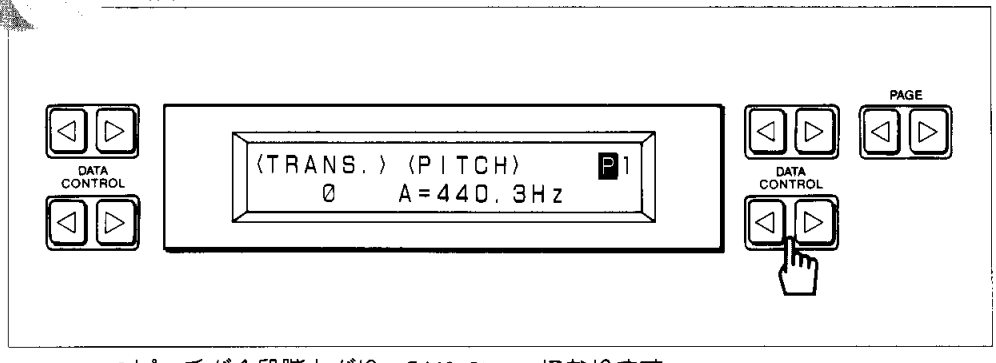


●〔PITCH/MIDI〕(ピッチ／MIDI)ボタンのランプが点灯します。



●ピッチの設定メニューが表示されます。

2 右側のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、ピッチを1段階上げます。



●ピッチが1段階上がり、「440.3Hz」になります。

これで、ピッチが設定できました。

MIDI端子について

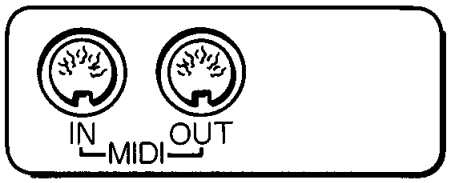
EL-30にはMIDI機能があり、MIDI機能を持った他の製品と組み合わせることにより、さらに様々な使い方ができるようになっています。

■MIDIとは?

MIDIという言葉はミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス(Musical Instrument Digital Interface)の頭文字をとったもので、"ミディ"と読みます。MIDIは、2台以上のMIDI製品を接続して、それらの間で、演奏にまつわる様々なコントロールをさせようという目的で考え出された世界統一規格です。
つまりMIDI機能は、他のMIDI規格の製品と接続して初めて使い道があるわけです。
(MIDI製品には必ずMIDI端子があります。)

■EL-30のMIDI端子

EL-30には、次のように2種類のMIDI端子があります。



MIDI IN(ミディイン)端子
他のMIDI製品からの演奏情報などを入力できます。

MIDI OUT(ミディアウト)端子
EL-30の演奏情報などが出力されます。

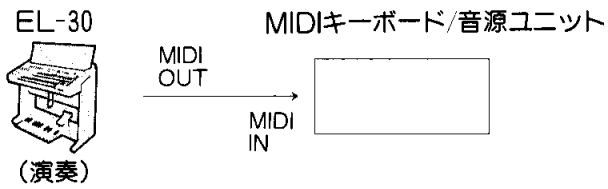
MIDI接続には、MIDIケーブルが必要です。

MIDIを使うと

「MIDI機能を使うとどんなことができるか？」、それは接続した製品との相性で決まります。簡単にいえば、両製品が共通して持っているMIDI機能に関して、やりとりできる可能性があります。
MIDI製品と一口にいっても実に様々なものがありますので、ここでは代表的なものを選んで"できること"を紹介します。接続する製品の取扱説明書も合わせてご覧ください。

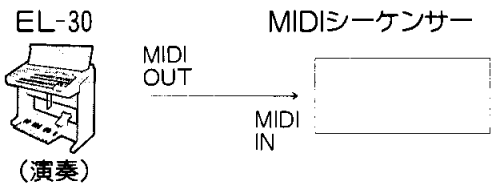
■MIDI OUT端子を使ってできること

MIDIキーボードまたは音源ユニットを接続した場合



- EL-30で演奏すると、接続した製品もそれ自身の音色で同時に鳴り、音に厚みがでます。
- EL-30で音色を切り替えると、接続した製品の音色も同時に切り替わります。
- この他にも様々な操作情報が出力されます。相手側が情報を受けてどう対応するかは、相手側のMIDI機能によって決まります。

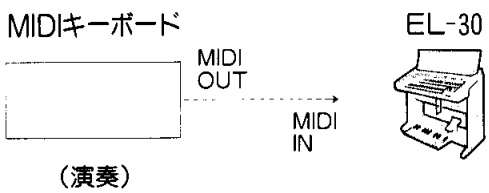
MIDIシーケンサーを接続した場合



- EL-30で演奏する内容を、MIDIシーケンサー（ミュージックディスクレコーダーMDR-3Pなど）に記録できます。ただしオプションのMDRを再生させ、その内容をMIDIシーケンサーに記録することはできません。
- 音色の切替情報をはじめ、様々な操作情報を記録できます。ただし、レジストレーションデータは記録されません。

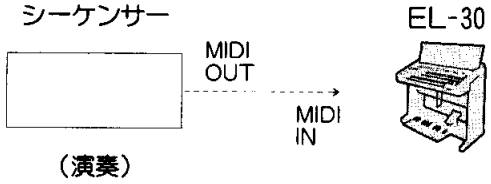
■MIDI IN端子を使ってできること

MIDIキーボードに接続した場合



- 外部のMIDIキーボードで演奏すると、EL-30もEL-30自身の音色で同時に鳴り、音に厚みがでます。
- 外部のMIDIキーボードで音色を切り替えると、EL-30の音色も同時に切り替わります。
- 外部のMIDIキーボードの演奏により、EL-30をキーボードパーカッションの音で鳴らすことができます。
- 外部のMIDIキーボードの演奏により、EL-30をリードボイスの音で鳴らすことができます。
- この他にも様々な情報を入力してEL-30をコントロール可能です。

MIDIシーケンサーに接続した場合



● MIDIシーケンサー(ミュージックディスクレコーダーMDR-3Pなど)に記録済みの演奏内容を、EL-30の音色で再生できます。MDR-3Pの場合は、レジストレーションデータをEL-30側で操作してください。

MIDIの設定

■MIDI送信チャンネルの設定

機能説明

上鍵盤と下録盤のMIDI送信チャンネルを、それぞれ変更することができます。

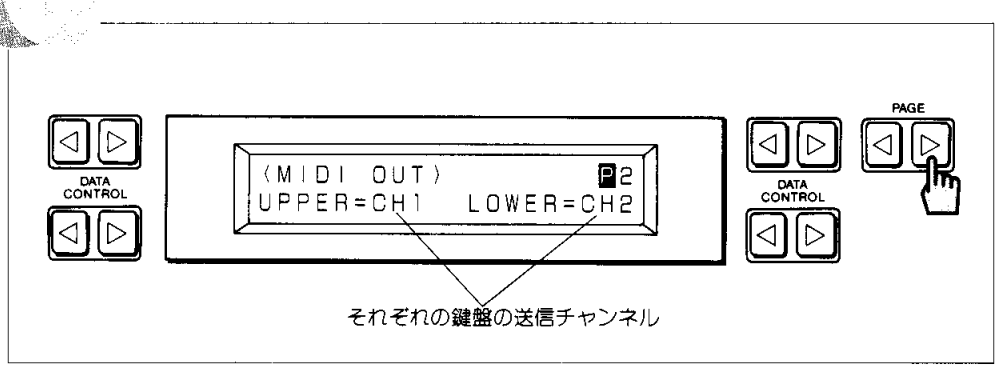
- 変更しなければ、上鍵盤の送信チャンネルは「CH1」、下鍵盤は「CH2」になっています。

操作方法

上鍵盤のMIDI送信チャンネルを「CH4」に変更する操作を例にして説明します。

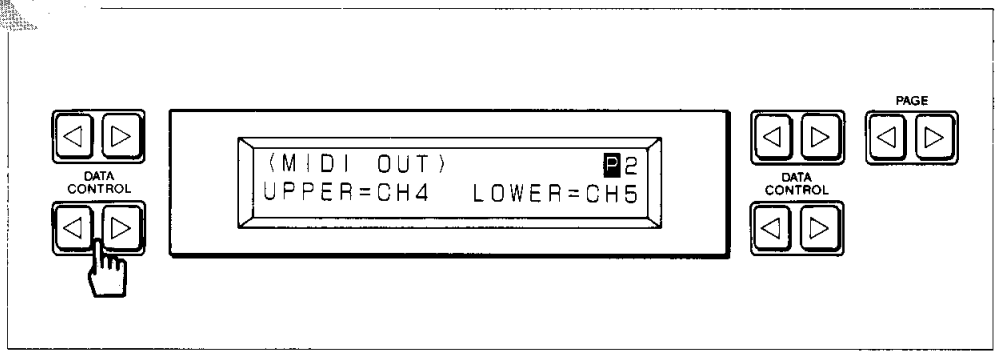
1 〔PITCH/MIDI〕(ピッチ／MIDI)ボタンを押します。

2 ページボタンの〔▷〕を押して、2ページ目を表示させます。



- 2ページ目の「MIDI OUT」の表示になり、上鍵盤と下鍵盤のMIDI送信チャンネルが表示されます。

3 左下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、上鍵盤の送信チャンネルを「CH4」にします。



- 変更したチャンネルで送信できるようになります。

これで、上鍵盤のMIDI送信チャンネルが「CH4」に変更できました。

- 下鍵盤のMIDI送信チャンネルを変更する場合や、元のチャンネルに戻す場合も、操作は同様です。

操作のポイント

- 送信先のMIDI製品のMIDI受信チャンネルと合わせてください。
- EL-30のMIDI OUT端子にMIDI製品を接続しない場合は、この操作は必要ありません。
- MIDI受信およびMIDI送信させていない状態で、設定してください。

注意

- ペダル鍵盤の送信チャンネルは、「CH3」固定です。
- エクスプレッションペダルの操作情報、レジストレーション切替えの操作情報は、「CH16」固定です。
- 電源を入れたときは、上鍵盤の送信チャンネルは「CH1」、下鍵盤は「CH2」に戻ります。
- MIDI送信チャンネルの設定をパネル設定の一部として、メモリーボタン〔1〕〜〔8〕に記憶させることはできません。
- MIDI受信チャンネルは固定で、各チャンネルの情報に対してEL-30は次のように対応します。

CH1：アッパーキーボードボイス
CH2：ロワーキーボードボイス
CH3：ペダルボイス
CH4：リードボイス（LEADをEXT.にしたときのみ）
CH15：キーボードパーカッション
CH16：エクスプレッションペダル等のコントロール情報

■リードボイスの選択

機能説明

EL-30のリードボイスをどの鍵盤情報をもとに発音させるか選択できます。

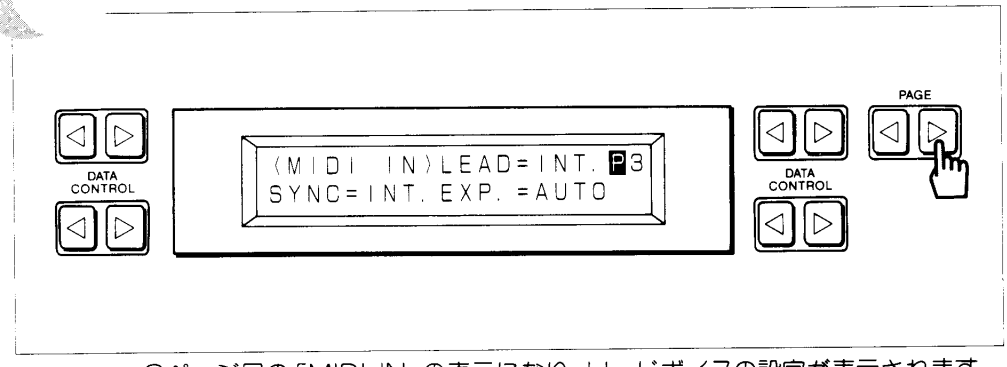
- 「EXT.」(外部)にすると、リードボイスは他のMIDI製品をもとに発音します。
- 「INT.」(内部)に戻すと、EL-30の上鍵盤による演奏情報をもとに発音します。
- 変更しなければ、「INT.」になっています。

操作方法

リードボイスの選択を、「EXT.」に変更する操作を例にして説明します。
元の「INT.」に戻す場合も、操作は同様です。

1 〔PITCH/MIDI〕(ピッチ／MIDI) ボタンを押します。

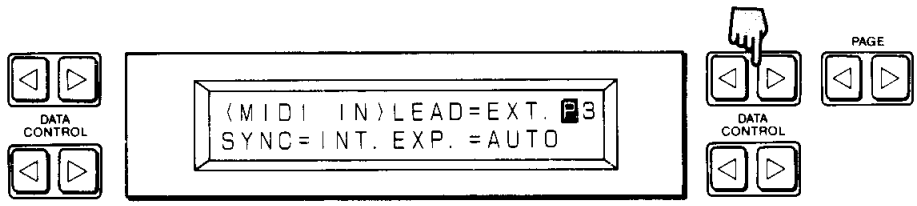
2 ページボタンの〔▷〕を押して3ページ目の「MIDI IN」を表示させます。



- 3ページ目の「MIDI IN」の表示になり、リードボイスの設定が表示されます。

3 右上のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、リードの設定を「EXT.」にします。

例）リードの設定を「EXT.」にするなら、右上の〔◁〕〔▷〕ボタンを1回押す。



これで、リードボイスの設定が、「EXT.」になりました。

操作のポイント

- 「EXT.」にした場合は、MIDI IN端子に接続するMIDI製品のMIDI送信チャンネルを、CH 4にしてください。
- MIDI受信およびMIDI送信をさせていない状態で、設定してください。

注意

- 「EXT.」にすると、MIDI IN端子に接続するMIDI製品でなければリードボイスの音を鳴らせなくなります。
- 電源を入れたときは、リードボイス用鍵盤の選択は「INT.」に戻ります。
- リードボイスの選択をパネル設定の一部として、メモリーボタン〔1〕〜〔8〕に記憶させることはできません。

■エクスプレッションの選択

機能説明

エクスプレッションの情報を選択できます。

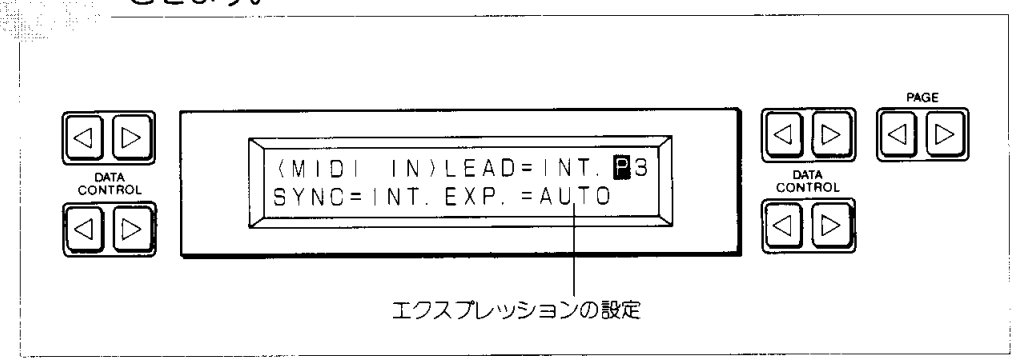
- 「EXT.」(外部)にすると、他のMIDI製品またはMDRのエクスプレッション情報により音量が決まります。
- 「INT.」(内部)にすると、EL-30のエクスプレッションペダル操作により音量が決まります。
- 「AUTO.」(オート)に戻すと、MDRをPLAYしている間は「EXT.」の状態になり、MDRをストップさせた後は「INT.」の状態になります。
- 変更しなければ、「AUTO」になっています。

操作方法

エクスプレッションの選択を、「EXT.」に変更する操作を例にして説明します。
元の「AUTO」に戻す場合または「INT.」にする場合も、操作は同様です。

1 〔PITCH/MIDI〕(ピッチ／MIDI)ボタンを押します。

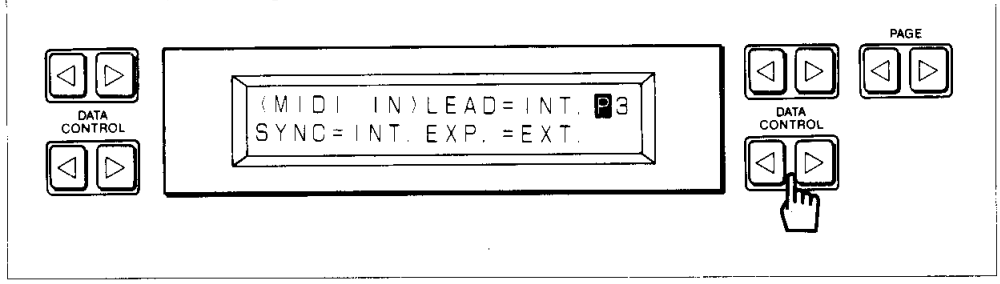
2 ページボタン〔▷〕を押して、3ページ目の「MIDI IN」を表示させます。



- エクスプレッションの設定が表示されます。

3 右下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、エクスプレッションの設定を「EXT.」にします。

例) エクスプレッションの設定を「EXT.」にするなら、右下の〔◁〕〔▷〕ボタンを1回または2回押す。



これで、エクスプレッションの設定が、「EXT.」になりました。

操作のポイント

- 「EXT.」にした場合は、MIDI IN端子に接続するMIDI製品のエクスプレッションの送信チャンネルを、CH16にしてください。
- MIDI受信およびMIDI送信をさせていない状態で、設定してください。

注意
- 「EXT.」にすると、MIDI IN端子に接続するMIDI製品でなければ音量調節ができなくなります。
- 電源を入れたときは、エクスプレッションの選択は「AUTO」に戻ります。
- エクスプレッションの選択をパネル設定の一部として、メモリーボタン〔1〕〜〔8〕に記憶させることはできません。

■同期クロックの選択

機能説明

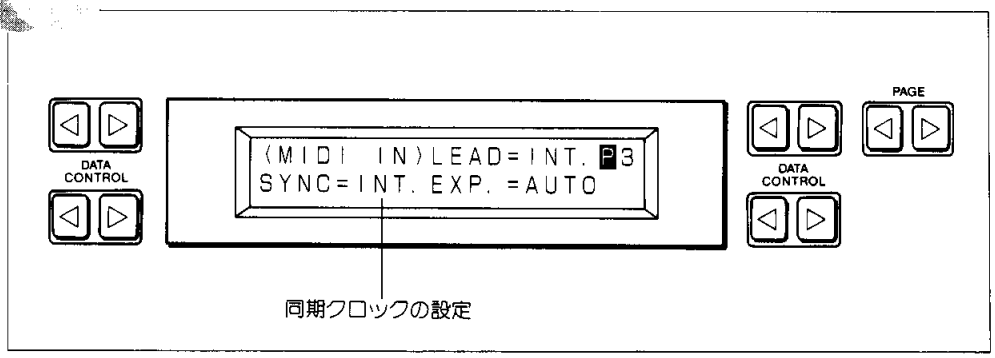
EL-30のリズムを制御（同期）させるクロックを選択できます。
- 「EXT.」（外部クロック）にすると、他のMIDI製品のクロックで制御可能になります。
- 「INT.」（内部クロック）に戻すと、EL-30のテンポで動作します。
- 変更しなければ、「INT.」になっています。

操作方法

同期クロック（SYNC）を、「EXT.」に変更する操作を例にして説明します。
元の「INT.」に戻す場合も、操作は同様です。

1 〔PITCH/MIDI〕(ピッチ／MIDI)ボタンを押します。

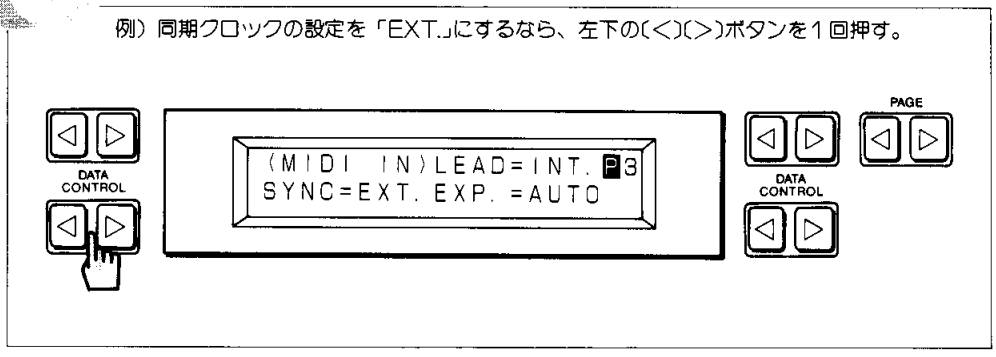
2 ページボタン〔▷〕を押して、3ページ目の「MIDI IN」を表示させます。



- 同期クロック(SYNC)の設定が表示されます。

3 左下のデータコントロールボタン〔◁〕〔▷〕を押して、同期クロック（SYNC）の設定を「EXT.」にします。

例）同期クロックの設定を「EXT.」にするなら、左下の〔<〕〔>〕ボタンを1回押す。



- 同時クロック（SYNC）の設定が表示されます。

これで、同期クロック（SYNC）の設定が、「EXT.」になりました。

操作のポイント

- 同期クロックを「EXT.」にした場合は、MIDI IN端子に接続するMIDI製品のクロックを、内部クロックにしてください。
- EL-30のリズムを制御させるクロックを変更しない場合は、この操作は必要ありません。
- MIDI受信およびMIDI送信をさせていない状態で、選択してください。

注意

- 「EXT.」にすると、MIDI IN端子に接続するMIDI製品でなければリズムを制御できなくなります。たとえば、EL-30の〔START〕(スタート)ボタンを押しても、リズムはスタートしません。
- 電源を入れたときは、同期クロックは「INT.」に戻ります。
- 同期クロックの選択をパネル設定の一部として、メモリーボタン〔1〕〜〔8〕に記憶させることはできません。

MIDIメッセージ一覧

MIDIメッセージをご存知の方は、ご覧ください。EL-30のMIDI仕様を素早く調べたり、細かく知るうえで役立つことがあります。

- この項では、数値の表現方法として2進数と16進数の2通りが使われていますので、ご注意ください。原則として、コードの欄に記載されている2桁の文字と、右側にHが付いた（たとえば40Hなど）文字は16進数です。

■チャンネルメッセージ

コード	メッセージ	送信	受信	備考
8n、nn(ノートNo.)、00~7F	ノートオフ	×	CH1	上鍵盤
		×	CH2	下鍵盤
		×	CH3	ペダル鍵盤
		×	(CH4)※1	リードボイス
		×	CH15	キーボードパーカッション
9n、nn(ノートNo.)、00	ノートオフ			
01~7F	オン	CH1※2	CH1	上鍵盤/アッパーキーボードボイス
		CH2※3	CH2	下鍵盤/ロワーキーボードボイス
		CH3※4	CH3	ペダル鍵盤/ペダルボイス
		×	(CH4)※1	リードボイス
		×	CH15	キーボードパーカッション
Bn、04、00~7F	セカンドエクスプレッション	×	×	コントロール
BF、0B、00~7F	エクスプレッション	CH16	CH16	コントロール
Bn、40、00	サステインオフ			
7F	オン	×	×	上鍵盤/アッパーキーボードボイス
		×	×	下鍵盤/ロワーキーボードボイス
		×	×	ペダル鍵盤/ペダルボイス
Bn、7B、00	オールノートオフ	×	×	上鍵盤/アッパーキーボードボイス
		×	×	下鍵盤/ロワーキーボードボイス
		×	×	ペダル鍵盤/ペダルボイス
		×	×	リードボイス
		×	×	コントロール
Cn、nn(レジストNo.)	プログラムチェンジ	×	CH1	上鍵盤/アッパーキーボードボイス
		×	CH2	下鍵盤/ロワーキーボードボイス
		×	CH3	ペダル鍵盤/ペダルボイス
		CH16	CH16	コントロール
Dn、00~7F	アフタータッチ	CH1※2	CH1	上鍵盤/アッパーキーボードボイス
		CH2※3	CH2	下鍵盤/ロワーキーボードボイス
		×	×	ペダル鍵盤/ペダルボイス
		×	(CH4)※1	リードボイス

※1：「LEAD」の設定を「EXT.」にした場合のみ受信可能です。
※2：「CH4」に変更可能です。
※3：「CH5」に変更可能です。
※4：ノートオン時のベロシティは、40Hで固定です。

■システムリアルタイムメッセージ

コード	メッセージ	送信	受信	備考
F8	タイミングクロック	○	○※1	
FA	スタート	○	○	
FC	ストップ	○	○	
FE	アクティブセンシング	○	○	
FF	システムリセット	×	×	

※1：「SYNC.」の設定を「EXT.」にした場合のみ受信可能です。

■システムエクスクルーシブメッセージ

1．エレクトーン共通メッセージ

バルクダンプデータ関係

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、70、70、00、……(データ)……、F7	バルクダンプデータ	×	○
F0、43、70、70、01、F7	音色パラメーターデータ送信要求	×	○
02	音色パラメーターデータ受信要求	×	○
F0、43、70、70、10、F7	全RAMデータ送信要求	×	○
11	全レジストレーションメモリーデータ送信要求	×	○
12	リズムシーケンスデータ送信要求	×	○
14	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
15	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
16	ユーザー音色データ送信要求	×	○
F0、43、70、70、20、F7	全RAMデータ受信要求	×	○
21	全レジストレーションメモリーデータ受信要求	×	○
22	リズムシーケンスデータ受信要求	×	○
24	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
25	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
26	ユーザー音色データ受信要求	×	○
F0、43、70、70、30、F7	モデルIDデータ送信要求	×	○
F0、43、70、70、38、7F、F7	バルクダンプアクノリッジ	○	×
00	アンアクノリッジ	○	×

コントロールチェンジ

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、70、70、40、45、7F、F7	左フットスイッチオン	○	○
00	オフ	○	○
F0、43、70、70、40、47、7F、F7	ニーレバーオン	○	○
00	オフ	○	○
F0、43、70、70、40、48、7F、F7	フィルインオン	○	○
00	オフ	○	○
F0、43、70、70、40、4B、7F、F7	イントロ/エンディングオン	○	○
00	オフ	○	○
F0、43、70、70、40、50、TL、TH、F7	テンポ	○	○

ミュージックディスクレコーダー(MDR)

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、70、70、70、01、F7	再生スタート	×	○
02	ストップ	×	○
03	録音スタート	×	○
04	ストップ	×	○
05	早送りスタート	×	○
06	ストップ	×	○
09	リズムポインターリセット	×	○

その他

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、70、70、78、SC、NC、F7	バーシグナル	○	○

2. ELシリーズ共通メッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、70、78、00、……(データ)……、F7	バルクダンプデータ	○	○
F0、43、70、78、01、F7	音色パラメーターデータ送信要求	×	○
02	音色パラメーターデータ受信要求	×	○
F0、43、70、78、10、F7	全RAMデータ送信要求	×	○
11	全レジストレーションメモリーデータ送信要求	×	○
12	リズムシーケンスデータ送信要求	×	○
14	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
15	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
16	ユーザー音色データ送信要求	×	○
F0、43、70、78、20、F7	全RAMデータ受信要求	×	○
21	全レジストレーションメモリーデータ受信要求	×	○
22	リズムシーケンスデータ受信要求	×	○
24	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
25	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
26	ユーザー音色データ受信要求	×	
F0、43、70、78、41、……(データ)……、F7	パネル操作データ※1	○	○
F0、43、70、78、42、……(データ)……、F7	カレントパネルデータ	○	○

※1：P108の「パネル操作メッセージ一覧」を参照してください。

3. モデル固有メッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、70、3D、00、……(データ)……、F7	バルクダンプデータ	×	○
F0、43、70、3D、00、F7	モデルIDデータ	○	×
01	音色パラメーターデータ送信要求	×	○
02	音色パラメーターデータ受信要求	×	○
F0、43、70、3D、10、F7	全RAMデータ送信要求	×	○
11	全レジストレーションメモリーデータ送信要求	×	○
12	リズムシーケンスデータ送信要求	×	○
14	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
15	ユーザーパターンデータ送信要求	×	○
16	ユーザー音色データ送信要求	×	○
F0、43、70、3D、20、F7	全RAMデータ受信要求	×	○
21	全レジストレーションメモリーデータ受信要求	×	○
22	リズムシーケンスデータ受信要求	×	○
24	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
25	ユーザーパターンデータ受信要求	×	○
26	ユーザー音色データ受信要求	×	○

コードの欄の3Dは、EL-30およびEL-50のIDコードです。

4. エレクトーン/シングルキーボード共通メッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0、43、73、01、02、F7	内部クロックモード要求	×	○
03	外部クロックモード要求	×	○

パネル操作メッセージ一覧

メッセージ構成：F0、43、70、78(ELシリーズ)、41(パネルスイッチイベント)、コード、データ、F7

機能（操作肢）		コード	データ範囲	備考
音色/リズム	アッパーキーボードボイス	02	00～0D	ボタン番号
	ロワーキーボードボイス	03	00～0D	〃
	リードボイス	06	00～04	〃
	ペダルボイス	07	00～04	〃
	リズム	0B	00～0B	〃
ボリューム	アッパーキーボードボイス	12	00～7F	ボリューム値
	ロワーキーボードボイス	13	00～7F	〃
	リードボイス	16	00～7F	〃
	ペダルボイス	17	00～7F	〃
	リズム	1A	00～7F	〃
	リバーブ	1B	00～7F	〃
トゥーロワー	リード	36	00、01	00；オフ、01；オン
	ペダル	37	00、01	00；オフ、01；オン
サステイン	アッパー	50	00、01	00；オフ、01；オン
	ロワー	51	00、01	00；オフ、01；オン
	ペダル	52	00、01	00；オフ、01；オン
キーボードバーカッション	ロワー	5B	00、01	00；オフ、01；オン
	ペダル	5C	00、01	00；オフ、01；オン
ディセーブル	ディセーブル	5F	00、01	00；オフ、01；オン
トレモロ(ファースト)	トレモロ(ファースト)	60	00、01	00；コーラス、01；トレモロ※1
シーケンス	1	61	00、01	00；オフ、01；オン
	2	62	00、01	00；オフ、01；オン
	3	63	00、01	00；オフ、01；オン
	4	64	00、01	00；オフ、01；オン

※1：00のコーラスを受信しても、トレモロ(ファースト)がオフになります。

MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション…		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	CH1、2、3、16 CH4、5	CH1、2、3、15、16 CH4	※1
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × **********	3モード × ×	
ノート ナンバー	 音域	36～96 ※2 **********	36～96 ※3	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH、v=0～127 ×	○ 9nH、v=0～127 ○ 8nH	v=0(オフ) ※4
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ○	× ○	
ピッチ・ベンダー		×	×	
コントロール チェンジ	01 04 11 64	× × ○ ×	× × ○ ※5 ×	モジュレーションホイール セカンドエクスプレッションペダル エクスプレッション サスティンペダル
プログラム チェンジ	 設定可能範囲	○ 0～7、112～116 **********	○ 0～7、112～116 0～7、112～116	
エクスクルーシブ		○	○	MIDIメッセージ一覧表参照
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	○ ○	○ ※5 ○	 (FAH、FCH)
その他	ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	× × ○ ×	

備考
※1 CH1；上鍵盤/アッパーボイス、CH2；下鍵盤/ロワーボイス、CH3；ペダル鍵盤/ペダルボイス、CH4；リードボイス、CH15；キーボードパーカッション、CH16；コントロール
※2 CH1；48～96、CH2；36～84、CH3；36～55
※3 CH15のみ36～127、他は36～96
※4 ペダル鍵盤の送信時のノートオンベロシティは、40Hで固定。
※5 外部同期モード時のみ受信。

モード1：オムニ・オン、ポリ　モード2：オムニ・オン、モノ　○：あり
モード3：オムニ・オフ、ポリ　モード4：オムニ・オフ、モノ　×：なし

付　録

末永くお使いいただくために ……112
EL-30の仕様 ……113
用語辞典 ……115
おかしいな？と思ったら ……119
五十音索引 ……121
アフターサービスと保証 ……126
ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点 ……127

末永くお使いいただくために

設置場所について

次のような場所には設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所
- 暖房器具の近く
- 湿気やホコリの多い場所
- 温度の特に低い場所

取扱い上の注意

- エレクトーン本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っかけたりしないように注意してください。
- コンセントから抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
- 電源コードの継ぎ足しは、危険ですからしないでください。
- ボタンやスイッチ類に無理な力を加えないでください。
- 椅子、譜面板などで本体にキズをつけないように、取扱いに注意してください。

他の楽器との接続について

- アンプなどの外部機器と接続する場合は、P12「付属端子について」を参照して、正しく接続してください。また、接続の際は、エレクトーンと外部機器の電源スイッチを切ってから行ってください。

他の電気機器への影響について

- このエレクトーンはデジタル回路を多用しているため、近くでラジオやテレビなどの電気機器などを同時に使用すると、雑音や誤動作などの原因になることがあります。他の電気機器から十分に離してご使用ください。

落雷に対する注意

- 落雷などの恐れがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。

外装・鍵盤のお手入れ

- 外装や鍵盤を清掃するときは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 汚れがひどい場合は、水でうすめた台所用の中性洗剤に浸した布をよく絞って拭いた後、乾いた布で乾拭きししてください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
- 外装の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますから、ビニール製品のカバーなどはご使用にならないでください。

万一異常があったら

- 使用中に音が出なくなったり、異常なにおいや煙が出た場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店もしくはサービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

本書と保証書の保管について

- 本書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

EL-30の仕様

鍵盤	上鍵盤	49鍵	C～c4(4オクターブ)
	下鍵盤	49鍵	C～c3(4オクターブ)
	ペダル	20鍵	C～g(11/2オクターブ)
タッチトーン		リードボイス、アッパーキーボードボイス、ロワーキーボードボイス	
音色	アッパーキーボードボイス ロワーキーボードボイス	ストリングス　ピチカートストリングス　クラリネット　サキソフォン　ブラス シンセブラス　コーラス　オルガン　ジャズオルガン　ピアノ　エレクトリックピアノ ハープシコード　ギター　エレクトリックギター　ビブラフォン　マリンバ トゥッティ1、2　コズミック1、2、3　ハーモニカ(アッパー専用)　ホルン(ロワー専用)	
	リードボイス	バイオリン　フルート　ホイッスル　トランペット　トロンボーン　オーボエ バスーン	
	ペダルボイス	コントラバス　ピチカートベース　エレキベース　シンセベース オルガンベース　チューバ	
効果	リバーブ	パネル	コントロール
	サステイン	パネル	アッパー(ニー)、ロワー(ニー)、ペダル
		ディスプレイ	〈レングス〉アッパー、ロワー、ペダル
	トレモロ(ファースト)		トレモロスピード
	ビブラート		アッパーキーボードボイス、ロワーキーボードボイス：プリセット/ユーザー(デプス) タッチビブラート：オン/オフ、リードボイス：プリセット/ユーザー　ディレイ、デプス、スピード)、タッチビブラート：オン/オフ
		コンディション	プリセット〈トレモロ〉オン/オフ(アッパー、ロワー、リード、ペダル)
	シンフォニック		シンフォニック、セレステ
	フィート		アッパーキーボードボイス、リードボイス、ロワーキーボードボイス、ペダルボイス： プリセット4′/8′/16′
	グライド		アッパーキーボードボイス、リードボイス、ロワーキーボードボイス
	ボリュームファイン		アッパーキーボードボイス、リードボイス、ロワーキーボードボイス、ペダルボイス
ベーシックレジストレーション		1、2、3、4、5	
レジストレーションメニュー		40パターン	
リズム		マーチ　ポルカ　カントリー　ブロードウェイ　ワルツ1、2　ジャズワルツ　ボレロ スイング1、2　ジャズバラード　ディキシーランド　バウンス1、2　レゲエ1、2 スローロック1、2、3　タンゴ1、2、3　チャチャ　ルンバ　ビギン　マンボ　サンバ1、2 ボサノバ1、2　8ビート1、2、3　ダンスポップ　16ビート1、2、3　16ビートファンク	

EL-30仕様

リズム	コントロール	パネル	スタート　シンクロスタート　イントロ/エンディグ　フィルイン　ボリューム　テンポ バー/ビート　テンポディスプレイ　テンポランプ
		ディスプレイ	オートバリエーション：オン/オフ　ボリューム
	プログラム	シーケンス	シーケンス1・2・3・4
アカンパニメント			タイプ1・2・3・4　ボリューム
キーボードパーカッション			ロワー　ペダル
オートベースコード			オートベースコード：オフ、シングルフィンガー、フィンガードコード、カスタムA・B・C メモリー：ロワー、ペダル
メロディーオンコード			モード：オン/オフ、1・2・3　ニー：オン/オフ
レジストレーションメモリー			メモリー、1、2、3、4、5、6、7、8、ディセーブル
レジストシフト			モード：オフ、シフト、ユーザー ユーザー：18ステップ
フットスイッチ	フットスイッチレフト		モード：オフ、リズム、グライド リズムコントロール：ストップエンディング、フィルイン グライドコントロール：アッパー　ロワー　リード
	フットスイッチライト		レジストシフト
ニーコントロール			サステイン：アッパー、ロワー　M.O.C.：オン/オフ
ピッチ			○
トランスポーズ			○
メインコントロール・その他			パワー　マスターボリューム　ニーレバー　フットスイッチ　ディスプレイ ディスプレイセレクト　ページ　データコントロール
ジャックの形式			ヘッドホン(ステレオフォーンジャック)　リズムインL・R(フォーンジャック) AUXイン・L・R(ピンジャック)　AUXアウトL・R(ピンジャック) MIDIイン・アウト(MIDIコネクタ)
アンプ			30W
スピーカー			20cm(コーン型)、5cm(コーン型)、モニター×2
定格電圧・消費電力・周波数			100V、40W、50/60Hz
寸法/重量		本体	間口109.2cm、奥行52.0cm、高さ99.3cm、(譜面板を立てたとき120.5cm)重量74.0kg
		椅子	間口66.5cm、奥行29.7cm、高さ58.0cm、重量7.5kg
付属品			和文シート

用語辞典

用語	解説	本文参照ページ
ア		
アカンパニメント	伴奏のこと。エレクトーンではリズムの伴奏タイプのこと。EL-30には4種類のパターンがある。	48
アッパーキーボードボイス	上鍵盤で発音させることができる音色。	21
エ		
エフェクト	効果のこと。エレクトーンではボイスコンディションのなかにある項目のひとつ。	33、58、77
A.B.C.	オートベースコードの略。	52
M.O.C.	メロディーオンコードの略。	56
MDR	オプションのミュージックディスクレコーダーの略。	92
オ		
オートバリエーション	リズムの4小節目と8小節目を自動的に変化させて、リズムにバリエーションを加える機能。	45
オートベースコード	下鍵盤とペダル鍵盤で押さえた音に加え、リズムに合わせたバリエーションで、ベース伴奏を自動的に付ける機能。	52
カ		
カスタムA.B.C.	オートベースコードのモードのひとつ。下鍵盤で押さえた音に加え、ペダル鍵盤で押さえた音によって、リズムに合わせたバリエーションでベース伴奏を自動的に付ける機能。	52
キ		
キーボードパーカッション	下鍵盤またはペダル鍵盤でさまざまな打楽器の音を付ける機能。	50
ク		
グライド	左フットスイッチでコントロールできる効果。左フットスイッチを押すと、一時的に音程が半音下がり、徐々に元の音程に戻る。	89
シ		
シングルフィンガー	オートベースコードのモードのひとつ。下鍵盤で根音を押さえるだけで、その音に合った和音と、リズムに合わせたバリエーションでベース伴奏を自動的に付ける機能。	52

用　語	解　説	本文参照ページ
シンフォニック	ボイスコンディションの中のエフェクトのメニューのひとつ。シンフォニックには、シンフォニックとセレステがある。シンフォニックは、複数の楽器で演奏しているような豊かな広がり感が得られる。セレステは、シンフォニックよりもかかりがゆるやか。	58
タ		
タッチビブラート	アッパーキーボードボイス、ロワーキーボードボイス、リードボイスコンディションの機能のひとつ。鍵盤タッチでビブラートをコントロールできる。	34
タッチトーン	鍵盤を弾く強さによって、弾く音の音量や音色を変化させる機能。タッチトーンには、イニシャルタッチとアフタータッチの2種類ある。イニシャルタッチは、音の立ち上がりの音量／音色を変化させ、アフタータッチは、立ち上がった後の音量／音色をコントロールする。	26
テ		
ディセーブル	レジストナンバーの右端にある〔D〕ボタンのこと。レジストレーションのリズム関係の設定を保護する機能を持つ。レジストレーションの音色と効果だけを変更するときに使う。	64
ト		
同時発音数	一度に鍵盤を押さえたときに発音する音数の最大値。	20
トゥッティ	アッパーキーボードボイスとロワーキーボードボイスにあるボタンのひとつ。弦楽器や管楽器で編成されたオーケストラタイプの音色のこと。	21
トゥーロワー	リードボイスとペダルボイスにあるボタンのひとつ。リードボイスまたはペダルボイスを下鍵盤で発音させることができる。	70
ドットボタン	アッパーキーボードボイス、ロワーキーボードボイス、リードボイス、ペダルボイスとリズムにあるボタンのひとつ。音色やリズムを登録することができる。音色の場合はすべての音色からどれかひとつを登録できる。リズムの場合は、すべてのリズムからどれかひとつを登録できる。	71
トランスポーズ	エレクトーン全体のキーを＋6～－6まで13段階に半音ずつ移調する機能。	93

用　語	解　説	本文参照ページ
トレモロ	ボイスコンディションの中のエフェクトのメニューのひとつ。音に回転感をもたせる効果。	58
トレモロ(ファースト)	トレモロとコーラスを設定するときやトレモロとコーラスを切り替えるときに使うボタン。	77
ヒ		
ビブラート	音をふるわせ、うるおいをもたせる効果。	34
フ		
フィート	音の高さを表す単位。8フィートを基音としていて、1オクターブ上が4フィート。逆に基音よりも1オクターブ下が16フィートになる。EL-30ではボイスコンディションのメニューの中で設定できる。	31
フィンガードコード	オートベースコードのモードのひとつ。下鍵盤で押さえたコードによって、リズムに合わせたバリエーションでベース伴奏を自動的に付ける機能。	52
ヘ		
ペダルボイス	ペダル鍵盤で発音できるベース音色。	23
ホ		
ボイスコンディション	音色の発音状態(コンディション)を設定する際に表示されるメニューの総称。音色ボタンを2回押すと表示される。	26
ボイスメニュー	音色ボタンを押したときにディスプレイに表示される音色のメニュー。	20
ボリューム	音量のこと。	25、40
ボリュームファイン	ボイスコンディションのメニュー項目のひとつ。各音色群ごとに音量を25段階に調節できる。	28、46
マ		
マスターボリューム	エレクトーン全体の音量を調節するつまみ。	5
ミ		
ミュージックディスクレコーダー	フロッピーディスクを使って、レジストレーションのデータを記録したり、演奏を録音・再生するオプション製品。	92
MIDI	ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェースの略。電子楽器などのデータ交信用に決められた世界統一の規格のこと。	95

用　語	解　説	本文参照ページ
メ		
メモリー	鍵盤から指を離しても、下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏(オートベースコード)を持続させる機能。	54
メロディーオンコード	上鍵盤で弾くメロディーにハーモニーを自動的につける機能。	56
リ		
リズム	音楽を構成する基本要素のひとつ。EL-30では、リズムボタンを総称しており、リズムそのものだけでなく、そのリズムで演奏される伴奏を伴ったものをさしている。	38
リズムプログラムシーケンス	あらかじめEL-50などで設定したリズムパターンの順番を再生させる機能。	80
リードボイス	上鍵盤で発音できるリード演奏用の音色。	22
リバーブ	音に残響感をつけ、ホールなどで演奏しているような響きにする効果。	59
レ		
レジストレーションメモリー	パネル上でセットしたレジストレーションを記憶させ、いつでも再現できるようにしておく機能。	62
レジストレーション・メニュー	いろいろなパターンのレジストレーションが記録されているメニューのこと。	65
ロ		
ロワーキーボードボイス	下鍵盤で発音させることができる音色。	21

おかしいな？と思ったら

現　象	原因と対処
時々「ガリッ」「ポツン」という雑音が入る。	近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、故障したネオンサインや電気ドリルなどを使用している場合は、雑音が入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュア無線局があるためです。どうしても気になる場合は、サービセンターまでご相談ください。→P127
ラジオやテレビなどに雑音が入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあると雑音が入ることがあります。なるべく離してご使用ください。
音が周囲のものを共鳴させる。	エレクトーンの音は持続音が多いため、周囲の戸棚や窓ガラスなどの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、器物を取り除くか、音量を小さくしてください。
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のバラつきがある。	一般の電子楽器は、音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量のバラつきをなくすことは非常に困難です。エレクトーンは、どの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されていますが、設置場所や聞く位置によって音量や音色が異なることがあります。どうしても気になる場合は、電音サービセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上・下鍵盤の高音部では低く感じられる。	特にピアノと比べた場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音と低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じの音色がある。	おもに管楽器の音色で感じることですが、これは実際の楽器音の特徴を再現するため、特に組み込まれた音色効果です。ブラスの振動やブレスノイズなど、よりリアルな、特徴をそなえた音色が得られます。
ボリュームを最大にセットしても、音が小さい。	①マスターボリュームが最小になっていませんか。つまみを時計回りに回してください。 ②エクスプレッションペダルを踏み込むのを忘れていませんか。ペダルを踏み込んでください。
ボリュームをセットしても、ペダル鍵盤の音色が発音されない。	オートベースコードのシングルフィンガーまたはフィンガードコードがセットされていませんか。リズムコンディションまたは〔A.B.C./M.O.C.〕ボタンのメニューのA.B.C.のモードをOFFにしてください。
上鍵盤と下鍵盤を同時に12音押さえても、11音しか発音されない。	アッパーキーボードボイスとロワーキーボードボイスは合わせて最大11音まで同時に発音されるようになっています。→P20
ペダル鍵盤またはリードボイスを同時に２音押さえても、１音しか発音されない。	ペダル鍵盤またはリードボイスでは、それぞれ同時に１音しか発音されないようになっています。同時に２音以上押さえた場合は、高音が優先されます。→P20

現　象	原因と対処
レジストレーションに記憶されない機能がある。	次の機能は記憶されないようになっています。 リズムのスタート、シンクロスタート、フィルイン、イントロ/エンディングの各スイッチなどの機能。 ユーザーボイス、ユーザーリズム、レジストシフト、MDRセレクトボタンなど。
リズムがスタートしない。	シーケンスのリズムをスタートさせようとしたが、シーケンスにデータが入っていないためです。EL-50などで作成したデータをシーケンスボタンに記憶させてください。→P80
メロディーオンコードによるハーモニーの音が発音されない。	上鍵盤でリードボイスだけが発音されるようになっていませんか。アッパーキーボードボイスをセットしてください。→P25
下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえると、リズム楽器の音が一緒に発音される。	キーボードパーカッションがONになっていませんか。キーボードパーカッションを使用しないときはOFFにしてください。(リズムエディット中は同時に発音されます。)→P50
オートベースコード(A.B.C.)のシングルフィンガーで下鍵盤の高い音を押さえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーでは定められた1オクターブのなかの音が出るようになっています。同じコード同じ音色であれば、下鍵盤のどの位置を押さえても同じ音程で和音が出ます。
コントロールパネル等が正常に働かない。または、メモリーしていた情報が変わってしまう。	非常にまれなことですが、落雷などにより異常電圧が流れ、エレクトーンが正常に機能しなくなったり、メモリーしていた情報が変わったりすることがあります。このような場合は、いったん電源スイッチを切り、データコントロールボタンの左端上の〔◁〕を押しながら、電源スイッチをもう一度ONにしてください。(このときすべてのメモリー情報は失われます。)それでも正常に働かない場合は、サービスセンターまでご相談ください。→P127

五十音索引

あ

アカンパニメント……48
アッパーキーボードボイス……21
アフタータッチ……26

い

イニシャルタッチ……26
イントロ／エンディング……42、43

え

8ビート……38
エクスプレッションペダル……5
A.B.C.……52
エフェクト……32、58、77
M.O.C.……56
MDR……92
MDRのできること……92
M./TO DISK……62
エレクトリックベース……23
演奏までの操作順序……5

お

オートバリエーション……45
オートベースコード……52
オーボエ……22
オルガン……21
オルガンベース……23
音色機能……24
音色選択……24
音色の発音状態を決める……26

か

カスタムA.B.C.……52

き

ギター……21
キーボードパーカッション……50
基本操作の流れ……18
基本レジストレーション……19

く

グライドモード（フットスイッチ関係）……89
クラリネット……21

け

鍵盤と音色群との関係……20

こ

効果について……58
コズミック……21
コーラス(音色名)……21
コントラバス……23

さ

サキソフォン……21
サステイン……60

し

シーケンス……80
自動伴奏……52
シフト……83
16ビート……38
シングルフィンガー……52
シンクロスタート……41
シンフォニック……78

す

スイング……38
スタート……41
ストップ……41
ストリングス……21
スローロック……38

せ

セレステ……78

そ

操作パネルについて……10
操作パネル早見表……3

た

タッチトーン……26
タッチビブラート……35
タンゴ……38

ち

チューバ……23

て

ディスプレイ……13
ディスプレイについて……14
ディセーブル……64
データコントロールボタン……15
電源コード……3
電源プラグ……5
テンポ……43

と

同時発音数……20
トゥッティ……21
トゥーロワー……70
ドットボタン……71
トランスポーズ……93
トランペット……22
トレモロ……58
トレモロ(ファースト)……77

に

ニー……57
ニーレバー……61

は

バイオリン……22
バウンス……38
ハーモニカ……21
パワー……5
パワーオン・リセット……91

ひ

ピアノ……21
弾いてみましょう……4
ピッチ……94
ピッチを変える……94
ビブラート……34
ビブラートスピード……34
ビブラートディレイ……34
ビブラートデプス……34
ビブラフォン……21

ふ

フィート……30
フィルイン……42
フィンガードコード……52
付属端子について……12
フットスイッチ……82
フットスイッチでコントロールできること……82
ブラス……21
フルート……22

へ

ページ……13
ベーシックレジストレーション……19
ペダルボイス……23

ほ

ボイスコンディション……26
ボイスディスプレイ……37
ボイスメニュー……20
ボサノバ……38
ボリューム……25
ボリュームファイン……28
ホルン……21
本書の見方……2

ま

マスターボリューム……5
マーチ……38

み

MIDI……95
MIDIコード一覧……109
MIDI対応機器との接続例……96
MIDI端子……95
ミュージックディスクレコーダー……92
ミュージックディスクレコーダーについて……92

め

メモリー(A.B.C.関係)……52
メモリー機能……54
メロディーオンコード……56

も

モニタースピーカー ……3

ゆ

ユーザー(レジストシフト関係) ……83
ユーザー(音色関係)……72

ら

ラテン……38

り

リズムを選ぶ……38
リズムコンディション……45
リズム/伴奏機能……52
リズムボリューム……40
リズムメニュー……38
リズムモード(フットスイッチ関係) ……87
リードボイス……22
リバーブ……59

れ

レジストシフト ……83
レジストレーション・メニュー……65

ろ

ロワーキーボードボイス……21

わ

ワルツ……38

アフターサービスと保証

保証

保証期間は、保証書の裏面の記載により、ご購入から満1カ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は、一切いたしません。また、保証は日本国内でのみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書をお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。また、納入調整サービスの際には、納入調整者が保証書内に必要事項を記入うえ、発行いたしますので記載事項をご確認ください。

保証書は、弊社がご購入いただいたお客さまに、ご購入の日から1カ年間の無償サービスをお約束申しあげるものですが、万一紛失なさいますと、保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように、充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種の判別や、サービス依頼店の確認など、便利にご利用いただけます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合には、ヤマハ特約楽器店、小売り楽器店にご連絡いただきますと、販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整・修理にお伺いします。
2. 保証書は、サービスにお伺いした際に今後の製品改良の貴重な資料とするため、技術者がお預かりさせていただきます。お預かりした保証書は、弊社サービスセンター、サービスステーションに送られ、記録した後、直接お客さまにご返送申しあげます。この間、約1週間〜10日間程度を要しますが、ご心配なくお待ちください。
3. 遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ楽器店あるいは弊社サービスセンター、サービスステーションにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申しあげますとともに、引き続き保証期間中のサービスを責任もって行うよう手続きいたします。

保証期間以後のサービス

満1カ年の保証期間が切れますと、サービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、8年となっております。保証期間以後の移転の場合も、保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転後のサービス担当店をご紹介いたします。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、他の電気製品を接続してお確かめください。
2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうか確認させていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いいたします。

●これだけはお知らせください

- ご住所
- お名前
- ご連絡先電話番号
- ご購入店
- お買い上げ年月日
- 機種名(モデル名)
- 症状

●エレクトーンの様子を詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方が様子をお聞かせくだされば、あらかじめ用意する部品など見当がつき、サービスがスムーズにいきます。

2. ときどき調子がおかしくなるような場合は、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、次のような場合です。
   - 夜間だけ音が小さい
   - ある時間だけ演奏中に雑音が入る
   - エレクトーンの音を出さなくてもスイッチを入れるだけで雑音が入る

3. エレクトーンの種類など、サービス依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なることもあります。早く確実にサービスさせていただくために、ぜひお願いいたします。

サービスのお約束について

1. お客さまの関係で、昼間ご不在のお客さまや、留守がちのお客さまは、できるだけお伺いする日時をお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時のご都合が悪くなった場合にはできるだけ早くサービスを依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービスをご依頼なされたにもかかわらず、日時が経過してもサービス員がお伺いしない場合には、お手数でも次ページのサービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点

修理受付および修理品お預かり窓口

北海道サービスセンター　〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50
ヤマハセンター内
TEL.011-513-5036

仙台サービスセンター　〒983 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL.022-236-0249

新潟サービスセンター　〒950 新潟市万代1-4-8シルバーボールビル2F
TEL.025-243-4321

東京サービスセンター　〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4
龍名館ビル4F
TEL.03-3255-2241

首都圏サービスセンター　〒211 川崎市中原区木月1184
TEL.044-434-3100

浜松サービスセンター　〒435 浜松市上西町911
ヤマハ㈱宮竹工場内
TEL.053-465-6711

名古屋サービスセンター　〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ㈱名古屋流通センター3F
TEL.052-652-2230

大阪サービスセンター　〒565 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ㈱千里丘センター内
TEL.06-877-5262

神戸サービスセンター　〒650 神戸市中央区元町通2-7-3
ヤマハ㈱神戸支店内7F
TEL.078-321-1195

四国サービスセンター　〒760 高松市丸亀町8-7
ヤマハ㈱高松店内
TEL.0878-22-3045

広島サービスセンター　〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39
TEL.082-874-3787

九州サービスセンター　〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.092-472-2134

本社／技術営業部
テクニカルセンター　〒435 浜松市上西町911
ヤマハ㈱宮竹工場内
TEL.053-465-5195

ヤマハ株式会社

北海道支店／〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター
鍵盤推進課 TEL.011(512)6114

仙台支店／〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命青葉通りビル
鍵盤推進課 TEL.022(222)6149

東京支店／〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
首都圏営業部 鍵盤推進課 TEL.03(3572)3140
関東営業部 鍵盤推進課 TEL.03(3572)3120

名古屋支店／〒460 名古屋市中区錦1-18-28
鍵盤推進課 TEL.052(201)5140

大阪支店／〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
鍵盤推進課 TEL.06-252-7541

広島支店／〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
鍵盤推進課 TEL.082(244)3748

九州支店／〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
鍵盤推進課 TEL.092(472)2152

本社／〒430 浜松市中沢町10-1
楽器営業本部 TEL.053(460)2191
鍵盤営業部
エレクトーン営業課

＊住所および電話番号は変更になる場合があります。

エレクトーン®は当社の登録商標です。

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION